

ISSN 1340-5306

*Studia Culturae Islamicae* No. 77 (2)

**Bulgarian Folk Songs**  
**from the Village of Davidkovo**  
**Inhabited by Muslims and Christians**

**(2) Audio-Visual Documents**

**Edited with notes by**  
**Kenji Terajima**

— イスラム教徒・キリスト教徒共住村 —

**ダヴィドコヴォ村民衆歌謡集**

(2) 音声・映像資料編

寺島憲治 編著

**RESEARCH INSTITUTE FOR LANGUAGES**  
**AND CULTURES OF ASIA AND AFRICA**

**Bulgarian Folk Songs  
from the Village of Davidkovo  
Inhabited by Muslims and Christians**

**(2) Audio-Visual Documents**

Edited with notes by  
**Kenji Terajima**

— イスラム教徒・キリスト教徒共住村 —

**ダヴィドコヴォ村民衆歌謡集**

**(2) 音声・映像資料 編**

**寺島憲治 編著**

Research Institute for Languages  
and Cultures of Asia and Africa (ILCAA)  
Tokyo University of Foreign Studies

3-11-1 Asahi-cho  
Fuchu-shi, Tokyo 183-8534  
Japan

Printed by  
Tokyo Press Co., Ltd.

## まえがき

『ダヴィドコヴォ村民衆歌謡集』(1) テキスト編は、ブルガリアで好評をもって迎えられ、多くの研究者や現地の友人、知人に目を通していただくことができた。加えて、ダヴィドコヴォ村では、自分たちの村の歌を数多くまとめて目にした村の芸達者たちが、そこから知恵と創作力を発揮してストーリーを組み立て、色鮮やかな村の伝統衣装を身につけてかつての男女の集いのセジャンカの様子を再現し、これを「ダヴィドコヴォ村のセジャンカ」と題してDVDに記録して贈ってくださった。编者にとっては望外の喜びである。

今回、幸いにも採録した音源をCDの形で発表する機会を得たが、それを村の人たちに話したところ、DVDの映像利用が話題になり、その著作権を有する村の公民館から無償でその利用許可をいただいた。わが国では馴染みのないこの地方の映像が、採録歌の理解に大いに役立つものと確信している。さらに、この「音声・映像資料編」だけで独立して利用できるように、合わせて文字化したテキストを簡便な形で再度刊行することにした。

本書の刊行については、多くの方々のご尽力を得たが、特にブルガリアでDVD映像の利用許可をまとめてくださった公民館職員のビンカ・シャラマノヴァ **Бинка Шаламанова** さん、日本ではアジア・アフリカ言語文化研究所の元所長の上岡弘二先生のご好意を頂いた。また、音源の整理では松前もゆるさんのご協力を仰いだ。記して皆さまに感謝を表したい。

2005年2月

寺島 憲治



音声・映像資料を収めた DVD は、Windows Media Player や RealPlayer などの一般的なソフトの最新バージョンでも開くことができます。

# 目 次

まえがき		iii
音声・映像資料について		1
歌い手たち		3
文字テキスト		9
<b>I</b> 神話的歌謡		11
<b>II</b> 歴史・叙事		15
<b>III</b> 儀礼歌		18
<b>IV</b> 恋愛歌		21
<b>A</b> 恋への憧れ	21	
<b>B</b> 出会い	23	
<b>C</b> 幼い娘の恋	27	
<b>D</b> 両親と恋する娘・息子たち	29	
<b>E</b> 恋の駆け引き	35	
<b>F</b> 恋の炎	41	
<b>G</b> 遠くにありて思う恋	49	
<b>H</b> 駆け落ち	52	
<b>I</b> 実らぬ恋・不幸な恋	56	
<b>J</b> 嫉妬	62	
<b>K</b> 浮気・道ならぬ恋	64	
<b>L</b> 恋の戯れ歌	68	
<b>V</b> 家族		73
<b>A</b> 母と娘	73	
<b>B</b> 父と娘	78	
<b>C</b> 母と息子	78	

	<b>D</b>	母と息子と娘	83	
	<b>E</b>	夫婦	84	
<b>VI</b>	社会			87
	<b>A</b>	世態	87	
	<b>B</b>	事件	90	
	<b>C</b>	戦争と兵役	93	
<b>VII</b>	労働			97
<b>VIII</b>	病と死			102

## 音声・映像資料について

### 音声資料

テキスト編に掲載した民衆歌謡は、音声の編纂中に録音を消失させた IV-K-9 歌と V-A-1 歌を除いて、すべての音声テキストをデジタル媒体化した。歌い手が、情動に突き動かされたり、また歌詞に詰まったりして長いポーズが生じた場合、適宜このポーズを詰めた。ほかに曲同士に極端な音量の差が出ないように調節したが、音質や速度などには手を加えていない。音声記録やその刊行が、デジタル技術の発達で容易になったとはいえ、まだ現地では音声テキストと文字テキストを緊密に連結したテキストは見られない。これが、音声と文字の双方を含めた一時代の記録となれば幸いである。

### 映像資料

2004 年にテキスト編を出版してダヴィドコヴォ村でお世話になった方々に寄贈したところ、私の採録した歌を下敷きにしてストーリーを組み立て、村の芸達者たちが集まり、かつてのポブレルカの様子を再現して DVD にまとめてくださった<sup>1</sup>。糸つむぎなどの娘たちの共同作業と歌の集い、そこに集まる若者たちの求愛場面などが演じられている。胡麻塩頭で白髭の若者は、本来なら稀だったはずだが、そこは皆さまの想像をたくましくしてご覧頂きたい。映像には、女性たちの糸紡ぎ作業の場面が記録されているが、50 代以上の女性は今でも慣れた手つきで糸紡ぎのできる人たちが多く。歌は、このような反復の多い単純な作業の退屈さを紛らわせるためにも歌われてきた。

画面には、2 種類の民族衣装を着た女性たちが見られる。一方はキリスト教徒のもう一方はムスリムのものである。本書の「歌い手たち」の項にも写真と説明を入れておいた。ちなみに、祖母の役割を演じているのは、本書のために多くの歌を歌ってくださったファトメ・デルヴィシェヴァさんで、後半に登場する男性たちのなかにはミレン・シャラマノフさんの姿も見られる。

粗筋を記しておこう。

映像は、娘と母親と祖母の三人の女たちがポブレルカをいそいそと準備する場面から始まる。そこに仲間の娘たちが入ってくる。中には、糸紡ぎの道具を持参しているものもいる。

娘たちが入室して一段落し手仕事と歌が始まると、ポブレルカを主催する当家の娘が、集まった娘たちのために冷たい水を汲んでくるから外に行ってくると言う。母親も祖母も家にはまだ水もあるし若い娘が遅くなってから外に出るものではないとお小言をいう。娘はその言葉を振り切って出てゆく。彼女

は、すでに親の決めた許婚者がいて婚約指輪を交わした身であるが、他に思いの若者がいて彼に会いたい一心で水汲みという口実をつけたのである。

娘が行ってしまうと、母親は一同に娘が手仕事で準備した嫁入り道具<sup>2</sup>を誇らしげに自慢する。やがて娘が戻ってくると、母親は娘の様子が少し変なのに気づいて問いただす。娘はあれこれと言いつくすが、母親にはすべてお見通しで、娘の頬にはキスの跡、目には涙の跡が残っているのを見逃さない。娘は、思いの若者と会っていたのである。

母親と祖母のお小言も一段落して、若者たちが入ってくる。娘がひそかに思いを抱いている若者もいる。若者と娘の歌やいちやつきがしばらく続き歌とバグパイプの演奏で盛り上がっている最中に、当の娘は仲間の娘と若者も仲間の若者とひそひそ話をし、二人は時を違えて中座する。

祖母が、孫娘のいないのに気がついて母親に知らせ、一座がざわざわし始めたそのときにパーンと鉄砲の音がする。それを聞いて、母親は娘が略奪されたと知り、エーゲ海沿岸のギュムルジナに行っている夫が戻ってきたら何と申し開きしたら良いのだろう嘆く。実は、親の決めた縁談に気乗りがしない娘と彼女への思いを断ち切れない若者が、この縁談をご破算にして二人が結ばれるために、若者が、娘と謀って仲間の助けを借りて娘を略奪したのである。

駆け落ちとも言えるこの種の合議の上の略奪婚は、かつて良く見られた。略奪された娘は、その若者と結婚の意志があるか否かを問いただされ、諾と答えると親が反対していても、たいていは二人の仲が認められた。略奪婚は私たちの採録歌にもよく歌われており、注釈編でも触れることにするので、詳細はそちらを参照していただきたい<sup>3</sup>。

しばらくして、若者の母親の作った祝福のパンを持って改めて娘の家に訪れた二人は、晴れてその仲を認められ、一同で祝いのチェーンダンスを踊る。そしてこの場面で、映像は締めくくられる。

- 
1. DVD に収録された映像の表題では、ポブレルカ *попелрка* に対応する標準語の語彙セジャンカ *седянка* が用いられ、“Седянка” в с. Давидково、つまり「ダヴィドコヴォオ村のセジャンカ」となっている。
  2. 映像では、高く積み上げられた敷物や掛け物、あるいは毛編みの靴下がそれにあたる。この嫁入り道具は、中部ロドピ地方ではニシャンとも呼ばれ、私たちの採録歌にも出てくる。かつて母親は、娘が糸紡ぎのできる年頃になると、嫁入り道具の準備をさせた。この準備は、娘には欠くことができないもので、それが整って初めて結婚が可能となった。
  3. ちなみに、DVD には、若者たちが加わってポップコーンを投げあつたり目配せを交わしたりなど、様々な求愛方法が映像化されている。かつて若い男女が直接に言葉を交わすことが社会的にも心理的にも制限されていた時代には、これらの身体動作用が極めて重要なコミュニケーションの手段になっていたが、これについても注釈編で論ずることにする。

## 歌手たち

ダヴィドコヴォ村に本格的に通い始めて2、3年したころ、当時の村長ステファン・キリロフさんの紹介して下さったのが、ファトメ・デルヴィシェヴァさんとビストラ・ガジェヴァさんであった。お二人は、名うての歌手として村では良く知られた女性で、ファトメさんが単独で歌われた歌は29曲、ビストラさん単独の歌は71曲、お二人の合唱になるものは25曲で、全体で採録歌の半数以上を占める。

採録歌は、お二人とも歌詞の紙などは一切見ず、すべて記憶だけで歌われた。どちらも歌好きのご一家に生まれ育ったことは同じだが、話をうかがうとお二人が歌を受け継ぎ、これを広げていった経過は異なる。



採録に協力して下さった歌手も集まってかつてのポブレルカの様子を再現していただいた。右端はファトメさん。左端はビストラさんで、彼女の隣に腰を下ろしているのがサリフ・デリサリホフさん、その隣がミレン・シャラマノフさん。中央の黄色に赤い格子模様の前掛け姿の女性はキリスト教徒の衣装で、両隣の女性はムスリムの衣装である。

両大戦間期の1929年生まれのファトメさんは、娘仲間の手仕事や娯楽の寄り合いであるポブレルカがまだ余喘を保っていた時代に娘盛りを向かえ、ここで実際に歌を用いさらに多くの歌を覚えた。ファトメさんの伝えるところでは、娘が直接若者に向かって好意を伝えるにはまだ憚られる時代的な雰囲気が残っていた。特に、ムスリム女性たちのあいだでは、キリスト教女性の同輩に比べ、そのような傾向が強かったという。それで、誰もが知っている歌をその言葉代わりに歌ったのである。唄歌にも通ずるものだが、歌は、娘や若者たちにとって欠くことのできない「教養」であった。階梯を1つ上って青年期に入り、社会的な秩序と規範を身につけてゆく上で、歌は、重要な役割を果たしていたのである。

第2次世界大戦中の1941年生まれのビストラさんの場合、事情は異なってくる。ビストラさんの歌好きは母親ゆずり祖母ゆずりだとは、彼女自身が何度も語っている。しかし、ビストラさんが青春の盛りを迎えたのは、戦後の混乱期を経てブルガリアが社会主義体制の確立に本格的に乗り出した時代であった。地方の農村部で、その象徴となったのが農業の集団化と協同組合農場の設立であった。平野部で1950年代初頭に始まったこの運動は、山間部のロドピ地方では1950年代末に本格化した。

小土地所有が主流だったブルガリアでの集団化は、農民が土地を貸し出し共同耕作するという形で行われた。農地の所有権は社会主義体制の後期にもなると、「自由に結束した共同労働者に属する」<sup>1</sup>とかなり曖昧にはされても、国有とされることはなかった。農作業の場でのこの共同労働を文化活動として側面から支えたのが、村の青年団体の民謡アンサンブルや演劇活動であった。そしてその活動拠点になったのが、古くからブルガリア各地に存在していた公民館と図書館の機能を兼ね備えたチターシテと呼ばれる組織であった。



ビストラ・ガジェヴァさん



ファトメ・デルヴィシェヴァさんとご主人（2002年夏、村祭りにて）

ダヴィドコヴォ村のチターリシテにも、1950~60年代頃の文化活動を伝える写真が数多く残されている。このような活発な活動は、背景に村びとが一体感を感じとれるような村共同体があったからにはほかならない。しかし、それは他面では、当時の村の行政当局や協同組合農場が、共同体の結束力を利用して、これを生産力の拡大と村社会の「進歩」に結びつけ、それをまた国家と社会主義建設のイデオロギーとオーバーラップさせることで、人びとの結束力=一体感に、資金をも含むさまざまな手段で認可を与えたことを意味していた<sup>2</sup>。1961年には文化庁の肝煎りでコプリフシティツァの民俗芸能全国大会が組織され、70年代初頭に本格化してくるロージェンで行われていたロドピ地方のフォークロア大会も、後に全国大会として国のバックアップを受けるようになる。そして、古くから歌い継がれてきたダヴィドコヴォやロドピ地方の歌は、このような全国大会を通して「ブルガリア民衆歌謡」<sup>3</sup>の欠くべからざる一部として盛んに喧伝され人びとに広く意識されるようになったのである<sup>4</sup>。ビストラさんが仲間たちと盛んに歌を歌ったのは、そのような時代のことだった。

もう一人の重要な歌手のラマダン・コイナルチェフさんは1934年生まれで、ファトメさんとビストラさんの間の世代である。彼は、早くから村の名だたる歌手として知られ、現在ブルガリア民族音



ラマダン・コイナルチェフさん：社会主義体制崩壊後、牧羊小屋を買い取り、夏は山で牧羊に忙しい



楽研究の第一人者であるニコライ・カウフマン Николай Кауфман (1925-) が、ロドピ地方で本格的な現地調査を始めた 1955 年にラマダンさんの歌を数多く採録している。そのいくつかを、ほぼ 50 年経た後に私たちも再び歌っていただいたが、その違いには、この期間にこの地方の歌や方言に訪れた変化が如実に現れていて興味深い。

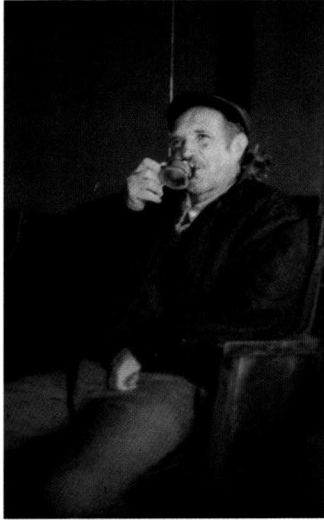
ここに挙げた方々のほかに、よく歌を知っている村びとは多い。しかし、いざ歌っていただくとなると、なかなか採録までにはこぎつけない。断りの理由としてよく耳にしたのが、「昔は声があって、よく歌ったんだけどね」という言葉である。ネビエ・デルヴィシェヴァさんが歌を良く知っているという聞いて娘さんに仲介を依頼したときにも、「うちの母はよく歌を知ってるけどね、でも疲れやすい性分で、もう声もないからどうかね」と自信なさそうだった。本人には申し訳ないが、録音には声量は必要ないからと付け加えるしかなかった。

幸いネビエさんには了解を得て歌ってもらったが、一般に村びとは、歌は、常に相手に向かって歌われるものであり、美声と声量がなくてはだめだとの通念がある。母親や祖母から学んだ歌でも、仲間たちに歌って意味を持つ。この事情は、群れの混ざり合いを避けるために、通例、一人で作業する羊飼いの場合も例外ではない。ロドピ地方の羊飼いたちは、孤独な作業のなかで独特な歌を紡ぎ上げてきたことで知られるが、その歌も無聊を慰めるために一人で歌うよりも、仲間が集まった時に歌を借りて自らの培った世界観を相手に伝え、また仲間の歌を聞くことを、彼らは一番の楽しみにしていたのである。その意味で、村びとたちが一番多くのメッセージをこめたのが求愛や結婚の歌で、だからこそ若者や娘たちに歌われ、人生のこの時期を過ぎても、人びとは長く記憶にとどめたのである。

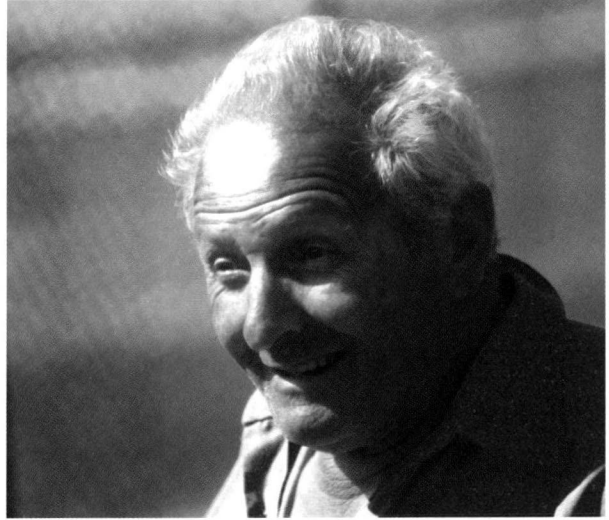


採録歌を聞くネビエ・デルヴィシェヴァさん(右) 左は娘のセヴダさん、中央はお孫さん

村に行くといつも定宿のようにお宅に泊めていただくコスタディン・カネフスキさんは、西のモリヤン地方のモムチロフツィ村の出身だが、この村出身のシンカさんと結婚してこの村で年金生活をしている。いつもコスタと愛称で呼ばれているコスタディンさんは、この地方でバスの運転手をしていたこ



フィリップ・カンチェフさん



コスタディン・カネフスキさん



民族衣装を持参して語義を説明するピンカ・シャラマノヴァさん

ともあって、山がちで村ごとに微妙に意味の異なってくるこの地方の方言に詳しく、歌を採録することにご意見をうかがうインフォーマントの一人である。そんなコスタさんとのつきあいから、こちらから求めもせず「歌うから聞け」と、台所をかねる居間でくつろいでいるときにいくつかの歌を採録することができた。そのような場で歌われるコスタさんの歌のなかでも出色は若い娘ドーラの死を歌った VIII-4 で、60代を半ば過ぎたコスタさんは、突然、涙を溜めて目をこすり、しばらく歌うのを止めて息を継ぎ、途切れがちになりながらも歌い上げてくださった。この空白の時間は、多くの意味の込められたものだが、残念ながら音では再現できないので音源の編集の際に削りざるをえなかった。

その後、ネビエさんに歌っていただいた VIII-2 歌を、いつも関連情報の収集などでお世話になっているチターリシテ職員のピンカ・シャラマノヴァさんに、この歌にまつわる語義や村での習わし

など説明をしてもらおうと聞いていただいていたときだった。思いの若者を探し回って死の床についているのを知った娘を歌った歌にじっと聞き入っていた彼女が、目を赤く潤ませハンカチを取り出して目をぬぐったのである。このような場面に幾度か出会うと、偶然や個人的な性向だからということでは説明できない。村の人口は、急激に減少してきているが、歌は、まだ人びとの心を激しく揺さぶり続けている。

- 
1. 1971年憲法、第19条。вж. Сборник граждански закон, изд. “Наука и изкуство”, София, 1980, стр. 13.
  2. この問題については、拙稿「ゴールスコ・スリヴォヴォ村の村びとたち」、南塚信吾編著、『東欧革命と民衆』、朝日選書、1992年、141-149頁参照。
  3. この頃、国境によるブルガリアという領域国家の他に、「ブルガリア人同胞」の暮らす「民族的領域 **етническа територия**」という用語が、研究者の間でも、またマスメディアでも盛んに用いられた。
  4. とはいえ、他の地方の民衆歌謡がダヴィドコヴォ村で広く歌われることはない。そのような歌を誰かが歌っているのを根生いの村びとが耳にすると「俺たちの」歌ではないと、すぐに反応が返ってくる。

文字テキスト



# I. 神話的歌謠

## 1. Каква съм мома загалил - I

— Да знаеш, майчо, да знаеш  
каква съм мома загалил,  
каква съм мома загалил  
на високана планина.  
5 — Питай йе, синко, питай йе

как ми се казва момана.  
— Питай йе, майчо, питай йе,  
ама ми напук казува,  
сутрин се кажи от изток,  
10 вечер се каже от запат.

17 март 2002 г.

Ташо Георгиев

## 2. Каква съм мома загалил - II

— Да знаеш, майчо, да знаеш  
какво съм любе загалил,  
какво съм любе загалил  
ф равноно поле широко.  
5 В денем по дваши ми дохода,  
по две ми китки донесе,  
по две ми китки донесе

и три червени йебълки.  
— Питай е, майчо, питай е  
10 коя ли ше йе дъщеря.  
— Питай йе, майчо, питай йе,  
ала се право не каза,  
ала се право не каза,  
само ме ф очи погледна.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 3. Бре Иване, чобане, сега станва три години

— Бре Иване, бре чобане,  
сега станва три години,  
сега станва три години,

5 три години и половина,  
как ми паси планинана,  
планинана, ширинана,

планинана, ширинана,

пък не мислиш да е плащаш.

3 септември 2003 г.

Костадин Каневски

#### 4. Не иди, момле ле, на вода - I

— Не иди, момле ле, на вода,  
чи йе водана далеко,  
чи йе водана далеко,  
далеко, извън селоно.  
5 Там има вирве длебоки,  
та растат дърве високи,  
та растат дърве високи,  
та правет сенка дебела,  
та правет сенка дебела.  
10 Оти щеш, момле ле, заспа щеш,  
оти щеш, момле ле, заспа щеш,  
нема кой да та разбуди.

— Имам ми, имам, юначе,  
двамина брате офчере,  
15 и дваминана с кавале,  
адинен свири вичеро,  
адинен свири вичеро:  
“Легайте, млади, легайте,  
и старине са легнали.”  
20 Пък друген свири вутерно,  
пък друген свири вутерно:  
“Ставайте, млади, ставайте,  
ставайте, млади, ставайте,  
и старине са станали.”

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

#### 5. Не иди, момле ле, на вода - II

— Не иди, момле ле, на вода,  
че йе водана далечко,  
далечко, извън селоно.  
Легна щеш, момле ле, заспа щеш,  
5 нема кой да та разбуди.  
— Имам ми, имам, юначе,

двамина брате с кавале,  
единен свири вечеро,  
малкине моми приспава,  
10 пък друген свири вутерно,  
пък друген свири вутерно,  
малкине моми разбуда.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 6. Тебе ще карам за годеш

— Овньо льо, вакъл, каматан,  
фчера ма майка главила  
на баш момана ф селоно,  
тебе ше карам за годеш.  
5 — Сейбиьо, мои сейбиьо,  
ку ти йе руса момана,  
че имам брат ми беличес,  
та нега карай за годеш.

— Овньо льо, вакъл, каматан,  
10 те ми йе руса момана,  
ама ща тебе да каркам.  
— Сейбиьо, мое сейбиьо,  
който ма мене заколи,  
ръката да му иссъхне,  
15 който от мене накуси,  
на гърло да му остане.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 7. Вградена невеста

Троица брате града градили,  
града грдаили и са здумвали.  
Дене йе градят на йесно слънце,  
вечере йе градет на месечинка.  
5 Троица брате са са здумали:  
— Който ни дойде утре най-рано,  
който ни дойде утре най-рано,  
нега щем в града, в града да вградим.

Че са зададе най-малкенона,  
10 най-малкенона, най-хубавана,  
най-хубавана, най-каматнана.  
С очи хи маха: “Назад са върни !”  
С ръки хи маха: “Назад са върни !”  
Нехи са справи: “Хайде по-бърже”,  
15 нехи са справи: “Хайде по-бърже”,  
и те дошлала и е вградили.

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

## 8. Стани ми, любе Стояне

Заплакала йе Величка,  
Величка млада невеста,  
Величка млада дувичка  
на стоянови дворове.

5 На стоянови дворове  
Величка плаче, нарежда:  
— Стани ми, любе Стуене,  
конче ти цвили ф обори.



10 Конче ти цвили ф обори,  
офчици бляят ф кошари,  
дете ти плаче ф люлчица.  
Стоян од гроба продума:  
— Не мога, любе, да стана,

15 тешка ма земе притиска.  
Тешка ма земе притиска,  
змийка ми очи изпила.  
Змийка ми очи изпила,  
на сърце гнездо извила.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 9. Невеста от гроб продума

5 Ве чули ли сте, не ли сте,  
кина йе ново станало  
в Давудьво село големо  
въф средничкана махала ?  
На беличконо коначе  
млада невеста легнала,  
девет йе дене лежела,  
на десетно йе умрела.  
Мехмет низ гробе, въз гробе

10 чиф си мулета караше.  
Невеста од гроб продума:  
— Мижу льо, мижу Мехметьо,  
ожени ли са аго ти,  
найде ли инге хубава ?  
15 Бобот му диван седи ли,  
майци ти измет праве ли ?  
— Аго са инге ожени,  
ама ми тебе не меса.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## II. 歷史・叙事

### 1. Хайдутите се молеха

Хайдутене са молеха  
да им са свърши зимана,  
да дойде лето й пролето,  
да са разлистне горана,  
5 да са разлистне горана,  
да ми прекрие хайдуте,  
хайдуте със керванене,  
керване з баш керванджие.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

### 2. Горице ситна зелена

— Горице ситна, зелена,  
е съ на тебе веровал,  
пък ти излезе неверна,  
5 та си ма, горо, фатиха,  
назат ми роки вързаха,  
напреш ми потен казаха.

7 септември 2003 г.

Шинка Каневска

### 3. Сахида се е загубил - I

Саида са йе загубил,  
нийде го нима на мейдан.  
Нийде го нема на мейдан,  
бубайко му го тръсеше.  
5 Бубайко му го тръсеше,  
от конак ф кръчма флизаше.  
10 От конак ф кръчма флизаше  
и за Сахида питаше,  
и за Сахида питаше.  
— Саида, синко Сахида,  
Сахида, синко Саида,  
ти ми са хитър мъчеше.

Ти ми са хитър мъчеше,  
пък си та хитри измавиха.

15 Либе му по двор ходеше,  
дрѣбни си сълзи ронеше.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

#### 4. Сахида се е загубил - II

Сахида са ѝе загубил,  
нийде го нема на мейдан.  
Нийде го нема на мейдан,  
бубайко му го трасеше.  
5 Бубайко му го трасеше,  
од дюкян в дюкян ходеше.  
Од дюкян в дюкян ходеше,  
от крѣчма ф крѣчма ходеше.  
От крѣчма ф крѣчма ходеше

10 и за Сахида питаше,  
и за Сахида питаше.  
— Сахида, синко Сахида,  
Сахида, синко Сахида,  
ти ми са хитър мъчеше.  
15 Ти ми са хитър мъчеше,  
ала ѝ та хитър измами.  
Ала ѝ та хитър измами,  
та ти главата зимаха.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев и Милен Шаламанов

#### 5. Сахида се е загубил - III

Сахида са е загубил,  
та го нема нийде на мейдан.  
Та го нема нийде на мейдан,  
бубайко му го трѣсеше.  
5 Бубайко му го трѣсеше,  
од дюкѣн ф дюкѣн ходеше.  
Од дюкѣн ф дюкѣн ходеше,

от крѣчма ф крѣчма флизаше.  
От крѣчма ф крѣчма флизаше  
10 и за Сахида питаше:  
— Де да си, Саѣда, дойдеше ?  
Любе ти плаче ф конаци.  
Любе ти плаче ф конаци,  
дете ти плаче ф люлчица.

20 март 2002 г.

Салих Делисалихов

## 6. Провикна се Дели Димо

Провикна се Дели Димо,  
провикна се Дели Димо,  
Дели Димо куруджие,  
куруджие, куршумджие  
5 от кория боянова,  
от кория боянова,  
боянова и богданова,  
боянова и богданова:  
— Ой ва вази шилетари,  
10 искарвайте шилетата  
от кория боянова,  
искарвайте шилетата

от кория боянова.  
Фсички чули и разбрали,  
15 фсички чули и разбрали,  
най-малкото шилетарче  
нито чуло, ни разбрало,  
най-малкото шилетарче  
нито чуло, ни разбрало.  
20 Че извадил меден кавал,  
че извадил меден кавал,  
па засвирил милно, жално,  
па засвирил милно, жално.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 7. Турци са минали и за Рада кон довели

Село, село, наше село,  
откак са си заселило,  
откак са си заселило,  
турци не са минавали,  
5 турци не са минавали,  
минавали, кондисвали.  
Снощи вечер са минали

де по двама, де по трима,  
де по двама, де по трима,  
10 у радини деветима,  
у радини деветима,  
деветима з десет коне,  
деветима з десет коне  
и за Рада кон довели.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

### III. 儀礼歌

#### 1. Да разшените байрама

Пукайте, казъм, пукайте,  
барем еннъшком пукнете,  
барем еннъшком пукнете  
да расшените байреман,  
5 да расшените байреман,

че байрем лечка дохода,  
че байрем лечка дохода  
за цала равна годинка,  
за цала равна година,  
10 и за оники месеца.

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

#### 2. Байрам няма да има

Година байрем чекахме,  
пък байрем нема да има,  
пък байрем нема да има.  
Летнаха бели снегове,

5 каг да са зберат момине,  
момине и юнацине  
по летвичкине пътьове,  
по равничкине дворове.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

#### 3. Да погиздим малката мома

— Подай си ми, мари, ключковене,  
да отключим, мари, шерен сандък,  
да, мари да.  
— Да отключим, мари, шерен сандък,

5 да извадим, мари, сичконо дребно,  
да, мари да.  
— Сичконо дребно, мари, копринено,  
копринено, мари, гюмюшено,

да, мари да.  
10 — Да погиздим, мари, малкана мома,  
да е водим, мари, на хороно,  
да, мари да.  
— Да са фатим, мари, по за ръка,

да са пукат, мари, душманене,  
15 да, мари да.  
— Да са пукат, мари, душманене,  
йем и мойне, мари, хем и твое,не,  
да, мари да.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

#### 4. И няма скоро да дойда

— Да ма бе, майчо, карала,  
та да не ма бе давала,  
та да не ма бе давала  
солкова, майчо, далече,  
5 дено слъцено превале,

превале, пък са не врыща.  
И е ща, майчо, да идам  
и нема скоро да дойда  
земе от бели снегове,  
10 лете от върли хайдуте.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

#### 5. Ще ида далечко

— Немой ма, майчо, ни карай,  
ни карай, ни пододривай.  
Сетне щеш пишман да станеш,  
чи ща далечко да идам,  
5 чи ща далечко да идам  
зад високана барчина,

зад високана барчина.  
Често ти госка ни ща до,  
често ти госка ни ща до  
10 зиме од бели снегове,  
земе од бели снегове,  
лете од гора с хайдуте.

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

## 6. Сега те, китко, оставям

- Китко зелена, червена,  
млочко та праших, поливах.  
Млочко та праших, поливах  
и вечеро та покривах.
- 5 И вечеро та покривах  
със копринена кърпечка,  
със копринена кърпечка  
да та не роси росана,
- 10 да та не роси росана,  
да та не пари сланана.  
Сега та, китко, оставем,  
йе ща далечко да идам.  
Йе ща далечко да ида  
на конче и на килимче,  
15 на конче и нах килимче,  
дено слъцено превале.

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева, Бистра Гаджева  
и Ташо Георгиев

## 7. Ела се свива, развива

- Ела са свива, развива,  
мома са с рода прощава.  
— Прощавай, родо голема,  
и ти, рожделна майчице,
- 5 дет ма си млочко кутила  
девет месеца на сърце,  
девет месеца на сърце  
и три години във ръце.

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## 8. Пукни се, тресни, момина майко

- Пукни са, тресни, момина майко,  
нали ти зехме малкана мома,  
нали ти зехме малкана мома,
- 5 малкана мома на ден планнина,  
малкана мома на ден планнина,  
на ден планнина, на йесно слънце.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## IV. 恋愛歌

### A. 恋への憧れ

#### 1. Овчар свири горе в планина

Офчар свири горе у планина,	че заведе стадо у полето,
мома пее долу у пулето.	па заведе стадо у полето,
Мома пее долу у пулето:	10 напасе го трева непасена.
— Тука има трева непасена,	Напасе го трева непасена,
5 тука има трева непасена,	напуи го вода непуена.
тука има вода непуена.	Напуи го вода непуена,
Де ѝе зачу уфчар ут планина,	па залуби мома нелюбена.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

#### 2. Другият байрам иде да дойде

Ей да са байрем помина	5 га нема любе главену
и друген иде да дойде,	армаган да му преводем,
и друген иде да дойде.	армаган да му преводем,
Защо ми иде да дойде,	инено и копринено.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

#### 3. За вас време няма ли да дойде

Люлекан са свива, развива,	като малко момиченце,
като малко момиченце,	га са върне от байреман,



5 га са върне от байреман,  
от байреман, от селеман,  
га засвале гиздилоно,  
гиздилоно, кичилоно:  
од главана — кривоно фесче,  
10 от рамцана — салтицана,  
от рамцана — салтицана,  
от кърсчено — кошечено,  
от кърсчено — кошечено,

от снашкана — шалварене.  
15 Хем ги свале, хем им дума:  
— Ой шалваре опустели,  
ой шалваре опустели,  
за вас време нема ли да дойде  
да ва свалят от снашкаса,  
20 да ва фърлят във кюшана,  
да ва фърлят във кюшана,  
мен да згърчат във срадана ?

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

#### 4. Там има три девойки хубавици

— Коньо, коньо, хранен коньо,  
хайде, коньо, да идеме.  
Хайде, коньо, да идеме,  
дено бехме сноща вечер.  
5 Тамо има три девойки,  
три девойки хубавици.  
Първана ми диван седи,  
фторана ми кафе вари.  
Фторана ми кафе вари,

10 третана ми кон разведа.  
Кон разведа и распитва:  
— Коньо, коньо, хранен коньо,  
коньо, коньо, хранен коньо,  
твой сайбие женен ли е ?  
15 Твой сайбие жинен ли е,  
жинен ли ѝе, главен ли е ?  
— Не ѝе женен, не ѝе главен,  
сига вика да са жени.

22 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

#### 5. Шинка без любе бива ли

Шинка на вода търнала  
нис криво, лево сокаче.  
На сокачено каваче,  
на кавачено пиленце,

5 пиленце, пъстро славейче,  
то си на Шинка думаше:  
— Шинко льо, мари, хубава,  
кано си бела, черночка,

като си бела, черночка,  
10 имаш ли любе да любиш ?  
— Пиленце, пъстро славейче,

стадо без офчар бива ли,  
стадо без офчар бива ли,  
Шинка без любе да бива ?

22 март 2002 г.

Фатме Дервишева, Бистра Гаджева  
и Здравко Красимиров

## В. 出会い

### 1. Байрам се мина, помина

Байрем са мина, помина  
и малък иде да дойде.  
И малък иде да дойде,  
мен са гиздило не свале.  
5 Кана ми не ѝе паднала,  
черън ѝе въгъл станала.  
Черън ѝе въгъл станала,  
с севде не са сме видвали.  
Фчера го видех, майчинко,  
10 ф сраде байреман седеше.  
Карши на мене гледаше,  
з бели ми ръки махаше.  
З бели ми ръки махаше,

с черни ми очи мигаше,  
15 с кипри ми уста викаше:  
— Девойко мари хубава,  
девойко мари хубава,  
син пламен ориш на мене.  
Син пламен ориш на мене,  
20 суни са, та го огаси.  
— Юначе лудо и младо,  
сърцено с вода не гаси.  
Сърце със вода не гаси,  
ам си го гаси момиче,  
25 ам си го гаси момиче  
на осемнайси години.

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## 2. Водице бистра, студена - I

- Водице бистра, студена,  
хитричко ше та попитам.  
Хитричко ше та попитам.  
На тебе кой ми дохада ?
- 5 — Дохада си ми, йотхада  
бело, черночно момиче.  
С черни ма очи оглева,  
з бели ма ръки налива.  
З бели ма ръки налива,
- 10 с уйгун ма снашка нараме.  
Та ма и насе, принасе  
прис криви, ливи сокаци.  
Та ма искаче, покаче  
на високине кюшкюве.
- 15 Та си ма марна отмаре  
белоно лице да мие,  
белоно лице да мие,  
морнана коса да реше.

22 март 2002 г.

Фатме Дервишева, Бистра Гаджева  
и Здравко Красимиров

## 3. Водице бистра, студена - II

- Водице бистра, студена,  
хитричко ше та попитам.  
Хитричко ше та попитам.  
До тебе кина дохада ?
- 5 — Дохада си ми, отхада  
било, черночно момиче.  
С тенка ма снашка нараме,  
та ма оннасе, принасе.  
Та ма оннасе, принасе
- 10 прис криви, ливи сокаци.  
Та ма искаче, покаче  
навър високи кюшкюве.  
Навър високи кюшкюве  
та си ма марна одмаре.
- 15 Та си ма марна одмаре  
белоно лице да мие,  
белоно лице да мие,  
морнана коса да чеше.

4 септември 2002 г.

Фатме Дервишева

## 4. Водице бистра, студена - III

- Водице бистра, студена, хитричко ше та попитам.

На тебе кина дохода ?  
— Дохода си ми, отхода  
5 бело, черночко момиче,  
с черни ма очи оглева,  
з бели ма ръки налива,

с тенко ма кърсче нараме.  
Та ма искаче, покаче  
10 навър високи къшкьове,  
та си ма марна одмаре  
исни шалваре да пере.

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

### 5. Водице бистра, студена - IV

— Водице бистра, студена,  
хитричко ше та попитам.  
Нах тебе кой ми дохада ?  
— Дохада си ми, отхада  
5 бело, черночко момиче.  
С черни ма очи оглева,

з бели ма ръки налива,  
с уйгун ма снашка онниса.  
Та ма искаче, покаче  
10 навър високи къшкьове,  
та си ма марна отмаре  
йесни шалваре да пере.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

### 6. Подай ми, моме, водица

Де са йе чуло, видело, мари,  
чернана земе без вода ?  
На едно место имаше, мари,  
и то йе мома чуваше,  
5 със филдженчек йе мереше, мари,  
филджен за алтън даваше.

Оддолу иде пътниче, мари,  
то си на мома думаше:  
— Подай ми, моме, водица, мари,  
10 със твойна десна ръчица,  
че съм за вода загорел, мари,  
и за теп са съм заболел.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

## 7. Ти да го носиш, аз да те гледам

Седнал ми ѝе млат терзия,  
млат терзия, абаджие,  
та лу крои, та лу шије  
момин фустан гевезиен.  
5 Оддолу върви малка мома,  
малка мома Фатминчица,  
те лу върви, и лу пита:

— Ой терзия, млат терзие,  
ой терзие, млат терзие,  
10 кому шиеш фустанчено,  
кому шиеш фустанчено,  
фустанчено гевезиен ?  
— Теб го шия, малка моме,  
ти да го носиш, ѝе да та гледам.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## 8. Райковско бело момиче - I

— Фчера ми минах, мале ле,  
приз долно село Райково,  
приз долно село Райково,  
приз чершискана махала.  
5 Там си ми срещнах, мале ле,  
райкофско бело момиче,  
райкофско бело момиче,  
двеста му дадох, мале ле,  
двеста му дадох, мале ле,

10 с очинки да ма погледне,  
триста му дадох, мале ле,  
с устинки да ми продума.  
Нито ма с очи погледна,  
нито ми с уста продума,  
15 нито ми с уста продума,  
най си ми с рѝки замахна,  
най си ми с рѝки замахна:  
“Махни са, махни, юначе !”

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 9. Райковско бело момиче - II

— Залюбих, майчо, загалих  
една ми мома смоленка.  
Галем ѝе, майчо, галем ѝе,  
галем ѝе и ше ѝе взема.

5 Галем ѝе, майчо, галем ѝе,  
галем ѝе и ше ѝе взема.  
Фчера ми минах, мале ле,  
приз горно село Райково.

10 Тамо си видех, мале ле,  
райкофско бело момиче.  
Селем му дадах, мале ле,  
пък то са назат йобръща,  
с уста му, майчо, продума,  
пък то ми река, мале ле,

15 пък то ми река, мале ле:  
“Върви си, върви, юначе,  
върви си, върви, юначе,  
йе съм си мома главена,  
йе съм си мома главена,  
20 главена с пърстен сменена.”

20 март 2002 г.

Салих Делисалихов

## 10. Сестра си имаме, първо си любе нямаме

Търнала ми е Захринка,  
търнала ми е Захринка  
на Смилян госка да иде,  
на Смилян госка да иде.  
5 Вървела, колко вървела,  
вървела, колко вървела,  
ала е пътен збъркала,  
ала е пътен збъркала,

срещнала двама офчаре,  
10 срещнала двама офчари.  
— Офчари, брате да ми сте ?  
Яла ми пътен кажите !  
— Ние си сестра имаме,  
ние си сестра имаме,  
15 първо си любе нямаме,  
първо си любе нямаме.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## С. 幼い娘の恋

### 1. Друга гали, мене мами - I

— Момиченце малакичко,  
малакичко, глупавичко,

що си глава привързала  
с една кърпа копринена,

5 с една кърпа копринена  
и със друга памучена ?  
— Йе си йе съм привързала,  
чи ми либе друга гали.  
Чи ми либе друга гали,  
10 друга гали, мене мами.  
Сноща си хи сама видех  
на водана, на чишмена.

19 март 2002 г.

Той си пуи хранено конче,  
те си точи студна вода.  
15 Те му даде ран босилек,  
той хи даде огледало,  
с огледало мене дума:  
“Да бе малко по-височка,  
да бе малко по-височка,  
20 да бе малко по-черночка.”

Фатме Дервишева

## 2. Друга гали, мене мами - II

— Момиченце малакичко,  
малакичко, глупавичко,  
що си глава привързала  
с йедна кърпа копринена,  
5 с една кърпа копринена  
и със друга памучена ?  
— Йе си йе съм привързала,  
чи ми либе друга гали.  
Чи ми либе друга гали,  
10 друга гали, мене мами.  
Друга гали, мене мами,  
сноща си хи сама видех.  
Сноща си хи сама видех

17 март 2002 г.

на водана, на чишмена.  
15 На водана, на чишмена  
той си пуи хранено конче.  
Той си пуи хранено конче,  
те си точи студна вода.  
Те си точи студна вода,  
20 той на мене си ми рече:  
“Да беше малко по-височка,  
да беше малко по-черночка,  
да беше малко по-черночка.”  
“Черночка съм, карар си съм,  
25 черночка съм, карар си съм,  
каرار си съм, не зимам та.”

Фатме Дервишева

### 3. Фесче не можеш да кривиш

— Гори ми, гори, юначе,  
дано за мома изгориш,  
дано за мома изгориш,  
дано си нийде не найдеш.  
5 Зам га ти виках, юначе:  
“Земи ма, джанъм, юначе !”

Пък ти ми челъм предаде:  
“Не ща та, не ща, девойко,  
ти не си мене йекрана,  
10 йекрана, ни прилегана,  
фесче не можеш да кривиш,  
риска не можеш да кошкаш.”

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

### 4. Аз съм мома за галене

Излели са офчерене  
от ъгълън на байреман,  
от ъгълън на байреман.  
Малка мома пазароват,  
5 малка мома пазароват,

пазароват, пазар згадат.  
— Брей офчero, говедаро,  
йе съм мома за галене,  
йе съм мома за галене,  
10 за галене, за мамене.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## D. 両親と恋する娘・息子たち

### 1. Стигни го, майчо, питай го

— Да знаеш, майчо, да знаеш  
фчера кина йе минало,  
фчера кина йе минало

през зеленоно ливаде ?  
5 Бело черноко копеле  
на сиво конче яздеше,



на сиво конче яздеше,  
на сино седло седеше.  
Конче му пиле фъркаше,  
10 руба му огън гореше.  
Стигни го, майчо, питай го

женено ли ѝе или не.  
Ако са каже женено,  
бери му билка разделна,  
15 пък ко са каже лефтеро,  
бери му билка за здраве.

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## 2. Дохадай, любе, дохадай

— Дохадай, любе, дохадай, любе,  
въф денен по дващ и по трищ,  
въф денен по дващ и по трищ, любе,  
въф неделкана шест пъте.  
5 Дано на тате дотегнеш, любе,

дано на майка омръзнеш  
мене на тебе да дадат, любе,  
че сме си лика прелика,  
че сме си лика прелика, любе,  
10 като два стръка иглика.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## 3. Дай си ме, майчо, на нашето комшийче

— Дай си ма, майчо, дай си ма  
на нашно близно комшийче.  
Фчера са, майчо, видехме  
и дарън са сме дарили:

5 то мене — валъ червена,  
ѝе нему — тирви ръкаве,  
то мене — кундри лескати,  
ѝе нему — аглък развърнат.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 4. Стара майка не се лъже

— Фатмиш, майчина дъщеро,

оти са, Фатмиш, забави ?

— Забавих ми са, майчинко,  
водана беше мътничка,  
5 водана беше мътничка,  
та чеках да са одмъти.  
— Фатмиш, майчна дъщеро,

стара са майка не лъже,  
стара са майка не лъже,  
10 стар са бубайко не мами:  
очинки ти са плакали,  
бускине ти са хапани.

22 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

### 5. Стара майка, първа касканджийка - I

— Момиче, момиче  
малко и глупаво,  
не стой кърши мене,  
изгорех за тебе.  
5 — Гори, лудо, гори,  
ти кайно за мене,  
ти кайно за мене,  
е ей ней за тебе.  
Е си имам, лудо,  
10 енна стара майка,  
енна стара майка,  
първа касканджийка.

Енна стара майка,  
и тя е мащеха,  
15 и тя е мащеха,  
първа касканджийка.  
Те мене не дава  
за вода да идам,  
за вода да идам,  
20 з друшки да са зберам,  
за вода да идам  
з друшки да са зберам,  
писмо да не пиша  
тебе да го пратем.

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

### 6. Стара майка, първа касканджийка - II

— Момиченце мало,  
мало хем глупаво,  
не стой срещу мене,  
изгорех за тебе.  
5 — Гори, лудо, гори,

гори да изгориш,  
какно ти за мене,  
йе ей най за тебе.  
Йе си имам, лудо,  
10 една стара майка,

една стара майка,  
и те ѝе мащеха.  
Та ми мен не дава  
за вода да идам,  
15 з друшки да са збирам,

любе да си имам.  
Гори, лудо, гори,  
гори да изгорим  
гори да изгорим,  
20 сух пепел да станем.

6 септември 2002 г.

Салих Делисалихов

### 7. Къде е, севде, майка ти - I

— Къде ѝе, севде, майка ти ?  
— Нема ѝе, нема, юначе,  
мойна е майка отишла  
зелено сено да суши,  
5 зелено сено да суши,  
черни череше да бере.

— Девойко мари хубава,  
дано са вейка превие,  
дано са вейка превие  
10 майка ти да са пребие,  
самички да останеме,  
не с тебе да са земеме.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

### 8. Къде е, севде, майка ти - II

— Къде ѝе, севде, майка ти ?  
— Нема ѝе, нема, юначе,  
нема ѝе, нема, юначе,  
мойна е майка отишла,  
5 мойна е майка отишла  
низ малка река надолу

черни череша да бере.  
— Дано са вейка превие,  
дано са вейка превие  
10 майка ти да са пребие,  
майка ти да са пребие,  
не с тебе да са земеме.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 9. Пък мене не е питала

- Фатмину, кузум, Фатмино,  
от фчера вардих до сноща,  
тебе та нийде не видех,  
че та най-сетне овардих,  
5 че та най-сетне овардих  
на вашне равни дворове,  
на вашне равни дворове,  
ам беше кимна, кахарна,  
10 — Кахарна ми съм, юначе,  
кахарна ми съм, юначе,  
чи ма йе майка главила,  
чи ма йе майка главила,  
пък мене не йе питала,  
15 пък мене не йе питала  
[дали го галем или не.]\*

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева

\* そばで聴いていた Бистра Гаджева さんが、この一行が歌い残されていると口頭で指摘し、歌い手の Фатме Дервишева さんも同意して歌いたす。

## 10. Майка те люто кълнеше - I

- Хасане, бело копеле,  
ти ли ми флизе в бахчена ?  
Ти ли ми флизе в бахчена,  
ти ли ми убра киткине ?  
5 Братене та са видели,  
та та са майци казали.  
Майка та люто кълнеше,  
пък йе са мирно помолих,  
клетва дано са размине  
10 ф Хасана да са не свива.  
Хасан ми нема кабахат,  
кабахатен йе от мене,  
вечеро гечко на вода,  
вутерно ранко в бахчена,  
15 вутерно ранко в бахчена  
роснине китки да берам,  
роснине китки да берам,  
кесимли да и увивам,  
кесимли да и увивам,  
20 Хасанму да и привадам.

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## 11. Майка те люто кълнеше - II

- Хасане, било копеле,  
ти ли ми флизе в бахчена ?  
Ти ли ми флизе в бахчена,  
ти ли ми убра киткине ?
- 5 Братене та са видели,  
та та са майци казали.  
Та та са майци казали,  
майка та люто кълнеше.  
Майка та люто кълнеше,
- 10 пък ѝе са мирно помолих.  
Пък ѝе са мирно помолих,  
клетва дано са размине  
ф Хасана да са не свива.
- Хасан ми нема кабахат,  
15 кабахатен ѝе у мене,  
вутерно ранко на вода,  
вутерно ранко на вода,  
шалваре ми са широки,  
шалваре ми са широки,
- 20 учине ми са мреноки,  
учине ми са мреноки,  
снашкана ми ѝе тенъчка,  
вечерно гечко ф киткине,  
роснине китки да берам,
- 25 кесимли да и увивам,  
Хасанму да и привадам.

22 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## 12. Майка те люто кълнеше - III

- Асане, бело копеле,  
ти ли ми флезе в бахчена,  
ти ли ми флезе в бахчена,  
та си ми юбрал киткине,
- 5 та ми си юбрал киткине,  
киткине, ранен босилек,  
киткине, ранен босилек ?  
Та са та братене видели,
- та са та братене видели,  
10 та са на майка казали.  
Та са на майка казали,  
люто та майка кълнеше.  
Люто та майка кълнеше,  
дано годинка не стигнеш,
- 15 дано годинка не стигнеш,  
годинка, ѝоше полвинка.

11 март 2003 г.

Фильо Кънчев

### 13. Мене си дава, а пръстен не дава

- Снощи бех търнал, тенко Яленко,  
ю вас да дойда́м,  
снощи бех търнал, тенко Яленко,  
ю вас да дойда́м,  
5 та си ма зала, тенко Яленко,  
вашено куче,  
та си ма зала, тенко Яленко,  
вашено куче,  
та си испустих, тенко Яленко,  
10 сребъран пръстен,  
та си испустих, тенко Яленко,  
сребъран пръстен.  
Дел го не на́йде, тенко Яленко,  
сребъран пръстен,  
15 дел го не на́йде, тенко Яленко,  
сребъран пръстен ?  
— Йе го не на́йдах, лудо и младо,  
майка го нашла,  
йе го не на́йдах, лудо и младо,  
20 майка го нашла,  
майка го нашла, лудо и младо,  
ям го не дава,  
майка го нашла, лудо и младо,  
ям го не дава.  
25 — Поди и речи, тенко Яленко,  
да си го даде,  
поди и речи, тенко Яленко,  
да си го даде.  
— Мене си дава, лудо и младо,  
30 пръстен не дава,  
мене си дава, лудо и младо,  
пръстен не дава.  
— Ага та дава, тенко Яленко,  
хайде със мене,  
35 ага та дава, тенко Яленко,  
хайде със мене.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

## Е. 恋の駆け引き

### 1. Галям, галям, как да не галям

- Крифконо фесче видиш ли,  
ага го крифкам, галиш ли ?  
— Галям, галям, как да не галям,  
5 колконо можеш, крифкай го.  
Галям, галям, как да не галям,  
колконо можеш, крифкай го.

— Летвана риска видиш ли,  
ага е кошкам, галиш ли ?

— Галям, галям, как да не галям,  
10 колконо можеш, кошкай е.  
Галям, галям, как да не галям,  
колконо можеш, кошкай е.

— Лескати кундри видиш ли,  
ага ги тропкам, галиш ли ?

15 — Галям, галям, как да не галям,  
колконо можеш, тропкай ги.  
Галям, галям, как да не галям,  
колконо можеш, тропкай ги.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## 2. Пукна ли ти се сърцето

— Юначе лудо и младо,  
пукна ли ти са сърцено,  
пукна ли ти са сърцено  
за сношничкана попрелка,  
5 га ти бех кърши седнала,  
ага бех кърпа фърлела,  
ага бех кърпа фърлела,

и ти бех лице открила,  
и ти бех плитки ройнала.  
10 — Лицено ти бе, девойко,  
лицено ти бе, девойко,  
кайно на Карлък снегове,  
плиткине беха, девойко,  
кайно във Арда рипкине.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

## 3. Не съм винце да ме пийнеш

— Брей юначе лудо-младо,  
що ма назлън тъй поглеваш,  
що ма назлън тъй поглеваш ?  
Не съм винце да ма пийнеш,  
5 не съм винце да ма пийнеш,  
нито грозде да ма къснеш,

ам съм мома за женене.  
Збери лишен, преводи ми,  
збери лишен, преводи ми,  
10 поици ма от стара майка,  
поици ма от стара майка,  
от стара майка й стар бубайко.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

#### 4. От севди да ме отбраниш

— Повниш ли, севдем, знаеш ли,  
не с тебе га са галехме,  
какво бе лето-пролето,  
какво ти карши излезях,  
5 карши шерени капии,  
как можех мерак да метам ?  
Наимаш ли са, юначе,

през Мадан да ма преведеш,  
през Мадан и през Рудозем  
10 от севде да ма одбраниш,  
че ми са млочко севдене,  
врит маданскине миньоре,  
рудоземскине сондьоре,  
давудьоскине шофьоре.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

#### 5. Не се ли сецаш какво на момиче приляга

— Аман ми, майчо, аман ми,  
аман, кина съм патила,  
аман, кина съм патила  
от сова уйгун копеле,  
5 от сова уйгун копеле.  
Илчиш навънка излезам,  
илчиш навънка излезам,  
та са със нега видьовам,  
та са със нега видьовам  
10 пот червен калем йебълка.  
Пот червен калем йебълка,  
летни йебълки къцаше.  
Летни йебълки къцаше,  
та хи нах мене меташе.  
15 Та хи нах мене меташе,  
ситна байлама цънкаше.  
Ситна байлама цънкаше,  
з байлама дума думаше.

З байлама дума думаше:  
20 “Девойко майери хубава,  
девойко майери хубава,  
утре са збирам, търновам.  
Утре са збирам, търновам,  
наръчай, севдем, поръчей.  
25 Наръчай, севдем, поръчей  
кина ли да ти донесам.  
Кина ли да ти донесам ?”  
“Юначе лудо и младо,  
до толко ли си будала,  
30 до толко ли са не сеташ,  
до толко ли са не сеташ  
момиче кина прилега,  
момиче кина прилега ?  
На вакло чело — алтъне,  
35 на вакло чело — алтъне,  
на бела шиє — инджие,



на бела шиѐ — инджие,

на тенко кърсче — кошече.”

4 септември 2002 г.

Фатме Дервишева

## 6. Момата под бук не седи, иска бял конак

— Защо си дошъл, юначе,  
защо си дошъл, юначе,  
дали за вода, дали за вода студена ?  
Ко ѝе за вода студена,  
5 ко ѝе за вода студена,  
да станам да та, да станам да та напоем.  
Ко ѝе за китка червена,  
ко ѝе за китка червена,  
да станам да та, да станам да та закичем.  
10 Ку ѝе за мома хубава,  
ку ѝе за мома хубава,  
да станам да та, да станам да та заследем.  
Ам къде ше ма одведеш,  
ам къде ше ма одведеш ?  
15 Момана под бук, момана под бук не седи.  
Момана под бук не седи,  
момана под бук не седи,  
момана иска, момана иска бел конак.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 7. Мене майка на тебе не дава - I

— Юначе лудо и младо,  
мен майка тебе не дава,

мен майка тебе не дава,  
чи ти ѝе на край къщана.

5 Мене ще майка да деде  
на Айшинек ми Мехмете,  
дено го руба прилега,  
списан, кендосан джамадан.

Юч киши го са кроили,  
10 беш киши го са ушили,  
тесте са игли строшили,  
ука са гайтан турили.

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## 8. Мене майка на тебе не дава - II

— Мехмет, черноко копеле,  
та гледай, та са нагледай,  
та гледай, та са нагледай,  
мен майка тебе не дава,  
5 мен майка тебе не дава,  
мене ще майка да даде,  
мене ще майка да даде  
ф Илиже, село големо,  
ф Илиже, село големо,  
10 на Айшинек ми Мехмете,  
на Айшинек ми Мехмете,  
дено го руба прилега,

дено го руба прилега,  
навуе до коленана,  
15 навуе до коленана,  
съз разметешен джамадан,  
съз разметешен джамадан.  
Беш киши гу са круили,  
беш киши гу са круили,  
20 он киши гу са ушили,  
он киши гу са ушили,  
тесте са игли струшили,  
тесте са игли струшили,  
маца са гайтан турили.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 9. Стани, моме, отвори ми

— Моме, моме, малка моме,  
стани, моме, отвори ми,  
роса роси, кон ми кваси,  
ветер дуе, мене мрази.

5 — Брей юначе лудо-младо,  
ей ти хливан, фкарай конен,  
ей ти хливан, фкарай конен,  
ей ти джимве, гледай мене,

ей ти джимве, гледай мене  
10 с пълни очи, с празни ръки,  
с пълни очи, с празни ръки.  
— Моме, моме, малка моме,  
моме, моме, малка моме,  
15 немой думай на ядове,  
немой думай на ядове,

на ядове, на пукове.  
Извади ща сабя, ножве,  
растроши ща джимовене,  
растроши ща джимовене,  
20 напълни ща празни ръки,  
напълни ща празни ръки,  
испразни ща пълни очи.

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

### 10. Оти не рачеш да станеш звеноводка

— Хасане, любе Хасане,  
оти ма, любе, забури,  
дали не съм ти на сърце,  
или не съм ти прилика ?  
5 — Ти ми си, Фатмо, на сърце,  
и ми си, Фатмо, прилика,  
ам ми е бално, Фатминко.  
Оти не рачиш да станеш,

оти не рачиш да станеш  
10 звеноводка да си водиш,  
звеноводка да си водиш  
младешко звено да ходим  
по широкине блокове,  
зеленен тютюн да берат,  
15 зеленен тютюн да берат,  
жълтана жътва да жънат.

30 август 2002 г.

Бистра Гаджева

### 11. Трактористът люби звеноводка млада

Наше село тракториста  
люби звеноводка млада,  
тя живее в друго село  
и момчето страда.  
5 Хей брей, тя живее в друго село

и момчето страда.  
— Престани ми, хубавице,  
имам новичка машина,  
ударник съм ф наше село  
10 вече три години.  
Хей брей, ударник съм ф наше село  
вече три години.  
— Как да дойда, трактористе,  
председателя не дава:  
15 “Ти си — казва — най-работна,  
дума да не става.  
Хей брей, ти си — казва — най-работна,  
дума да не става.”

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

## Г. 恋の炎

### 1. Само моята севда не дойде

Врит си севдине дойдаха,	или йе извън дошлоло,
лу мойна севде не дойде.	та са нахвътре не казва ?
Чем оти ут кина ли е,	Бийна ми пютюн кадаиф
чем оти ут какво ли е ?	и на ран зелен босилек,
5 Дели йе ице деличе,	10 и на юнацки бейтуран.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## 2. Кадъна седи в бахчена - I

Кадъна седи в бахчена,  
кичица държи ф ръкана,  
прис срещу върви севдена,  
з бели му ръки махаше,  
5 с черни му очи мигаше,

с кипри му уста викаше:  
5 — Прес тува мини, севдице,  
за тебе седем в бахчеса,  
за тебе вием киткаса,  
за тебе кутем снашкаса.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 3. Кадъна седи в бахчена - II

Кадъна седи в бахчена,  
китчица държи ф рокана,  
насрещу върви севдана,  
з бели му ръки махаше,  
5 з бели му ръки махаше,

с кипри му уста викаше:  
— Махни са, махни, юначе,  
за тебе седем в бахчена,  
за тебе седем в бахчена,  
10 за тебе берам киткана.

11 септември 2002 г.

Рамадан Койнарчев и Милен Шаламанов

## 4. Съжули ми лицето, изгори ми сърцето

— Момиченце маличко,  
колчиш минам, заминам,  
колчиш минам, заминам  
приз вашине дворове,  
5 ти босилек расадаш.  
Отчепи ми щълбица,  
отчепи ми щълбица  
да е махна през лице,

да ѝе махна през лице,  
10 да ѝе скрийнам ф пазушка !  
Момле ле мари хубава,  
той не е било босилек,  
той не е било босилек,  
ам е било коприва,  
15 съжули ми лицено,  
изгори ми сърцено.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 5. Слънчице е превалило, месечинка изгрела - I

Търнала ѝе Марушчица  
по терлици, по чорапи  
през зеленоно ливаде,  
през зеленоно ливаде  
5 на студенине врисъове  
за студена бистра вода.  
А след нее лудо-младо,  
то Марушки проговаре:

— Стой, почакай, Марушчице,  
10 стой, почакай, Марушчице,  
да поседим, да погълчим !  
Поседели, погълчели,  
слънчице ѝе превалило,  
месечинка ѝе изгрела,  
15 месечинка ѝе изгрела.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 6. Слънчице е превалило, месечинка изгрела - II

— Брей юначе лудо-младо,  
запдей конче, дочекай ма,  
запдей конче, дочекай ма  
да поседим, да погълчим,  
5 да поседим, да погълчим,  
ким юнацко, ким девојцко,  
ким юнацко, ким девојцко,  
ким за мине и за тебе.  
Поседили, погълчели,

10 слънчицено привалило,  
слънчицено привалило,  
месечинкана изгрела,  
месечинкана изгрела.  
— Пусни си ма, брей юначе,  
15 пусни си ма, брей юначе,  
чи ма чика стара майка,  
чи ма чика стара майка,  
стара майка, стар бубайко.

4 септември 2002 г.

Фатме Дервишева

## 7. Елате, когато самичка остана

— Девојко мари хубава,  
мен ми ѝе на им дошлоло  
да си ми флезам навътре,

да си ми седнам ф кюшена,  
5 да си ми седнам ф кюшена,  
да си ми сварем кавена.

— Юначе лудо и младо,  
немой са вечер доходай,  
ам си ми яла, юначе,  
10 ф четвъртък вечер одвечер,  
ага самичка останам  
със шише бела ракие,

със шише бела ракие  
и з друга вино червено,  
15 и да ги сипвам, рассипвам  
със каносанки ръчинки,  
със каносанки ръчинки,  
съз бормосанки пърскове.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 8. Сафие Сюлмана рукала

Сафье Сюлмана рукала,  
рукала й го е зовала.  
Рукала й го е зовала:  
— Де да йе Сюлман да дойде,  
5 де да йе Сюлман да дойде  
четвъртък вечер одвечер,  
четвъртък вечер одвечер  
ага самичка останам,  
ага самичка останам,

10 нема ни майка, ни боба,  
нема ни майка, ни боба,  
със шише бела ракия,  
със шише бела ракие  
и з друга вино червено,  
15 и з друга вино червено,  
йе ше йе сипвам, пресипвам,  
йе ше йе сипвам, пресипвам  
със каносани ръчинки.

11 септември 2002 г.

Рамадан Койнарчев и Милен Шаламанов

## 9. Довечера съм сама самичка

— Довечера съм сама самичка,  
ти, ела, аго Сюлмане, да дойдеш, дойдеш.  
— Свари ли ми щеш тиква на кори,  
да дойда, бела Жамлице, да дойда, дойда ?  
5 — Сваряла съм ти, пак ше ти сварям,  
ти, ела, аго Сюлмане, ти ела, ела.  
— Свари ли ми щеш морна кафица,

- да дойда̀м, бела Жамлице, да дойда̀м, дойда̀м ?  
 — Сваряла съм ти, пак ше ти сварям,  
 10 ти, ела, аго Сюлмане, ти ела, ела.  
 — Ройна ли ми щеш летвана риска,  
 да дойда̀м, бела Жемлице, да дойда̀м, дойда̀м ?  
 — Ройкала съм ѝе, пак ше е ройнам,  
 ти, ела, аго Сюлмане, ти ела, ела.  
 15 — Легна ли ми щеш на десна ръка,  
 да дойда̀м, бела Жемлице, да дойда̀м, дойда̀м ?  
 — Легала съм ти, пак ше ти легнам,  
 ти, ела, аго Сюлмане, ти ела, ела.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## 10. Погледни, девойко, дали не се е съмнало

- |  |  |
|--|--|
| <p>— Стани, девойко, погледни<br/>         дали не са ѝе съвнало.<br/>         — Посто̀й, почака̀й, юначе,<br/>         ранко е още за тебе.</p> | <p>5 Покути снашка топола,<br/>         погляда̀й очи черночки,<br/>         погледа̀й очи черночки,<br/>         полюби буски карпуски.</p> |
|--|--|

20 март 2002 г.

Ташо Георгиев

## 11. Засапало е челебийче

- |   |   |
|---|---|
| <p>Засапало ѝе челебийче<br/>         на момина десна ръка,<br/>         мило ѝе да го буди,<br/>         драчко ѝе да го гледа.<br/>         5 Че кайдиса, та му рече:</p> | <p>— Стани, стани, челебийче,<br/>         стани, стани, челебийче,<br/>         зора са ѝе зазорила,<br/>         зора са ѝе зазорила,<br/>         10 слънчицену ѝе угрело.</p> |
|---|---|

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев



## 12. Моето сърце гори, не гаси

Фсичкине гори, джанъм,  
горат и гаснат,  
моето сорце, джанъм,  
гори, не гасне.  
5 Я си ма мене, джанъм,  
там заровете,  
там доло, доло, джанъм,  
до двене реки,

там доло, доло, джанъм,  
10 до двене реки,  
дено са збират, джанъм,  
малкине моми,  
малкине моми, джанъм,  
с млади невести,  
15 малкине моми, джанъм,  
с млади невести.

11 септември 2003 г.

Шинка Каневска

## 13. Изсуши ме, изгори ме

— Иссуши ма, изгори ма,  
Фейминко ле, моме,  
та ма стори сухо дърво, севде мое.  
Земи брадва, рассечи ма,  
5 Фейминко ле моме,

та ма стори на две, на три, севде мое,  
та ма метни фъф йогънен,  
Фейминко ле, моме,  
та ма стори ситан пепел, севде мое.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев и Милен Шаламанов

## 14. От любов да се умира - I

— Бекиро, любе Бекиро,  
ди са йе чуло й видело,  
ди са йе чуло й видело  
от севде да са умира,  
5 от севде да са умира ?  
И йе ше да бех умрела,

и йе ше да бех умрела,  
ам са лу съхне и вехне,  
ам са лу съхне и вехне,  
10 суха съм вейка станала,  
суха съм вейка станала,  
босилекова вейчица,

босилекова вейчица,

трандрафелюва кичица.

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева

### 15. От любов да се умира - II

— Бекиру, любе Бекиро,  
де са ѝ чуло, видело,  
де са ѝ чуло, видело  
от севде да са умира,  
5 от севде да са умира ?  
Да са умира, умре ша,  
да са умира, умре ша,

ам са лу нищо не прави,  
ам са лу нищо не прави,  
10 та са лу съхне и вейне,  
та са лу съхне и вехне,  
суху съм дърво станала,  
суху съм дърво станала,  
трандрафелюва пречица.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 16. От севда легнеш, не станваш - I

— Бално ли ти ѝе, момле ле,  
жално ли ти ѝе, девойко,  
от нема тебе да земам,  
оти си долна девойка,  
5 оти си долна девойка,  
пък ѝе съм горно копеле ?

— Юначе лудо и младо,  
сама си знаем сърцено,  
сама си знаем сърцено,  
10 сърце за севде какво ѝе.  
Од болес легнеш и станеш,  
от севде легнеш, не станваш.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 17. От севда легнеш, не станваш - II

— Бално ли ти ѝе, юначе ?

— Жално ли ти ѝе, девойко,

от нема тебе да земам ?  
— Сама си знаем сърцено,  
5 сама си знаем сърцено,

сърце за севде какво ѝе.  
Од болест легнеш и станеш,  
от севде легнеш, не станваш.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 18. Ако се с любе вземем

Салих ѝе рано подранил  
с неговоно конче хранено,  
с неговоно конче хранено  
низ бела река надолу,  
5 низ бела река надолу,  
нах Смилян мисли да иде.  
Там има любе болничко,  
ше иде да го обида.  
И га е Смилян наближил,

10 извади гребен кокален,  
та си перченен разреса  
и си на перчен думаше:  
— Перченьо робен, каматан,  
ако са с любе земеме,  
15 ако са с любе земеме,  
дано до пояс нарастеш,  
пък ко са с любе не земем,  
дано до косъм окапеш.

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева

### 19. Карат ме не за кражба, а за мома

Момица точи водица  
на каньофскана чешмица.  
Юначе карат ворзано,  
ворзано, синджиросано.  
5 — Язък ти, язък юначе,  
га си та карат ворзано !

— Мене ма не карат за кражба,  
ам си ма карат за мома,  
ам са ма карат за мома,  
10 че съм момица полюбил,  
че съм момица полюбил  
на каньофскана чешмица.

7 септември 2003 г.

Шинка и Костадин Каневски

## G. 遠くにありて思う恋

### 1. Орехо зелен и кравен - I

— Орехо зелен и кравен, наимаш ли са, орехо, наимаш ли са, орехо, листено да ми удържиш,	од Гюмюржюне касаба с негвана тешка сюрие, с негвана тешка сюрие, з дребнине вакли агнета,
5 листено да ми удържиш от Касъм та до Гергьовден, от Касъм та до Гергьовден, дорде са върне любено, дорде са върне любено	15 з дребнине вакли агнета, с йедрине вакли овньове, с йедрине вакли овньове ? Пот тебе ше и потпладне, пот тебе ше и потпладне,
10 од Гюмюржюне касаба,	20 пот твойна сенка дебела.

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

### 2. Орехо зелен и кравен - II

— Йорешко зелена и кравен, наимаш ли са, йорешко, наимаш ли са, йорешко, листено да ми юдържиш,	от Касум та до Гергьофден, от Касум та до Гергьофден, дорде са върне любено, дорде са върне любено,
5 листено да ми юдържиш	10 ярмаган да ми донеси ?

11 март 2003 г.

Фильо Кънчев

### 3. Къде да те търся, юначе

— Китко льо, китко червена,	хич край не ми съм фатила,
-----------------------------	----------------------------

хич край не ми съм фатила,  
как са ѝе лету минало,  
5 как са ѝе лето минало,  
летоно и пролетоно,  
летоно и пролетоно,  
иначе лудо и младо,  
с твоюно бално теглещик.  
10 Ага ми росне росица,  
ага ми росне росица,  
де да та тръсем, юначе,  
де да та тръсем, юначе,

качулка да ти донесам,  
15 качулка да ти донесам,  
моена тенка махрама,  
моена тенка махрама  
и киченана намазла ?  
— Тръси ма, тръси, девойко  
20 на високана планина,  
на високана планина  
близо до вода студена,  
блиско до вода студена  
до тенка ѝела висока.

4 септември 2002 г.

Фатме Дервишева

#### 4. Пусни ме, майчо, да ида

— Излезе, майчо, послушей,  
какво ми пиле засвирва,  
засвирва, майчо, запева,  
той ми са мойно любеле.  
5 Пусни ма, майчо, да ида  
од блиско да го послушем.

Пък ко ѝе моено любеле,  
тогаф ма немой ни чекай,  
дор ми не дойде летуно,  
10 летуно и пролетуно,  
дур са не лисне горана,  
дур са не цвети цветено.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

#### 5. Имам любе в тъмница

Дуйни ми, вейни, бел ветер,  
люлей ми гора зелена,  
топи ми бели снегове,  
отвори пъте на Драма,  
5 мислем на Драма да идам.

Там имам любе ф тъмница,  
ше идам да го ѝоткупим  
със шиник желти алтъне,  
със шиник бели грошове.  
10 Че ко ми алтъне не стигнат,

алтъне, бели грошове,  
ше продам момско гиздело,  
продавам момско гиздело,

залагам тенкаса снашка  
15 и пък ше да го откупим.

6 септември 2002 г.

Салих Делисалихов

## 6. Обичам войниче

— Обичем, мамо, обичем  
войниче либе да либем,  
войниче либе да либем  
от първа рота фтори звот,  
5 от първа рота фтори звот.  
Ас ходих, мамо, фъв Бургас,  
ас ходих, мамо, фъв Бургас.  
Фъв бургаските казарми,  
фъв бургаските казарми  
10 фсички казарми тъмниха,  
фсички казарми тъмниха,  
една казарма светеше,  
една казарма светеше  
и мойто либе там беше,  
15 и мойто либе там беше.  
Либовни писма читеше,  
либовни писма читеше  
и са на Бога молеше,

и са на Бога молеше:  
20 “Боже ле, мили Господи,  
Боже ле, мили Господи,  
стори ма мене самолет,  
стори ма мене самолет  
да си ми фъркнам ф селоно,  
25 да си ми фъркнам ф селоно  
да си ми видим либено,  
да си ми видим либено  
либено нарасло ли йе,  
либено нарасло ли йе,  
30 друшкине стигнало ли йе.”  
“Сино ле, мои майчини,  
либено ти йе нарасло,  
либено ти йе нарасло  
и друшкине йе стигнало,  
35 и друшкине йе стигнало  
и рубана йе сторило.”

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

## Н. 駆け落ち

### 1. Не щеш ли да ме приследиш

Мъркни са, мъркни, деньо лъо, ку мериш да са мъркноваш, Айше на вода ше иде на двана вресе студени, 5 на двана вресе студени, на трине чешми шерени. Одзаг йе Хасан заследи и си на Айше думаше:	— Айшо чернока, каматна, 10 дали не щеш ма приследи ? — Не ща та, не ща, Хасане, оти си черна панчуга, оти си черна панчуга. Йе ща Мехмете да земам, 15 йе ща Мехмете да земам, Мехмете, тенка селвие.
---	---

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

### 2. Хайде с мена да идеш

Фатма си двори метеше съз босилкова метлица, съз босилкова метлица. — Фърни си, Фатмо, метлана, 5 фърни си, Фатмо, метлана, хайде със мене да идеш. Хайде със мене да идеш	ф честана гора зелена. Ф честана гора зелена 10 на щеме сенка дебела. На щеме сенка дебела, напас щем стадо големо. Напас щем стадо големо, та гу щем пот те потплани.
--	--

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 3. Ще те приследя, ако нямаш друго любе

Керушка двори метеше,

Стоян си стадо мамеше.

Стоян си стадо мамеше  
прес керушкини дворове  
5 и на Керушка думаше:  
— Керушко, моме хубава,

не щеш ли си ма приследи ?  
— Приследи ща та, Стояне,  
приследи ща та, Стояне,  
10 ко немаш любе и друго.

7 септември 2003 г.

Костадин Каневски

#### 4. Загорка овце да кара ли

Загорка двори метеше, мари,  
Стоян си стадо караше,  
Стоян си стадо караше, мари,  
през Загоркини дворове  
5 и на Загорка думаше, мари:  
— Карай, Загорке, офцене,  
Карай, Загорке, офцене, мари,

карай ги да ги броиме,  
карай ги да ги броиме, мари,  
10 бирликен да им делиме.  
— Стояне лудо и младо, мари,  
де са ѝе чуло и видело  
Загорка офце да кара, мари,  
Загорка бирлик да дели ?

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

#### 5. Ще ти престана, твоя ще стана

— Девойко мари хубава,  
дали не щеш ми престана,  
дали не щеш ми престана,  
престана мое да станеш ?  
5 — Престана ти ща, юначе,  
ако ма малко почекаш  
да дойде зима-подзима,

да станат ноци големи,  
да станат ноци големи,  
10 да приспем майка и боба,  
да приспем майка и боба,  
тугава ше ти престанам,  
тогава ше ти престанам,  
престанам, твоя ше станам.

30 август 2002 г.

Бистра Гаджева



## 6. Вземи ме, вземи момле ле - I

- Земни ма, земни, момле ле,  
че имам мерак на тебе.
- Каг да та земам, юначе,  
га немаш къща градена ?
- 5 Къде щем да летуваме,  
къде щем да зимуваме ?
- Момле ле, мари, хубава,  
лете щем да летуваме,
- 10 ф честана гора зелена,  
зиме щем да зимуваме  
ф равноно поле широко.  
Ф равноно поле широко  
край село море длебоко,
- 15 и там щем къща огради  
од босилкови корене.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

## 7. Вземи ме, вземи момле ле - II

- Земни ма, земни, момне ле,  
йе имам мерак на тебе  
и севде имам за тебе.
- Каг да та земам, юначе,  
га немаш къща градена ?
- 5 Къде щем да летуваме,  
къде щем да зимуваме ?
- Момле ле, мари, хубава,
- до й толкоф ли са не сеташ ?
- 10 Не щеме лето летува  
ф летнана гора зелена.  
Не щеме лето летува  
ф летнана гора зелена.  
Зима щем да зимуваме
- 15 ф равноно поле широко.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев, Милен Шаламанов  
и Бистра Гаджева

## 8. Търнала си съм, на дома няма да ида

- Са вечер, любе, търновай,  
търновай, търнала си съм,
- на дома нема да идам,  
на дома ти ща да дойдам.

- 5 Майци ти хабер попусни,  
зеде конакан да празни,  
зеде конакан да празни,  
зеде вечере да прави,  
зеде ще чилек да иде.
- 10 Пък ко на, любе, не рачет,
- збра са щем с тебе двамина,  
казандиса щем стотина,  
огради щеме бел конак  
с он ики бели кумине,  
15 с он ики бели кумине  
и със кърк секис пенджури.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

### 9. На мене ли си, Русо, сърдита и гнева

- На мене ли си, Русо,  
сърна и гневна,  
на мене ли си, Русо,  
или на село ?
- 5 — Не съм на село, лудо,  
най съм на тебе,  
че ма измами, лудо,  
малка и глупава,
- та ма изведе, лудо,  
10 извън селоно,  
та ма фъведе, лудо,  
ф честана гора,  
та ми облюби, лудо,  
белосо лице,  
15 та ми окърши, лудо,  
тянкаса снашка.

22 март 2002 г.

Фатме Дервишева, Бистра Гаджева  
и Здравко Красимиров

### 10. Фатма с Тахир избяга

- Ве чули ли сте, не ли сте  
кина йе ново станало  
в Давудиво село големо  
въф Ениханска бърчина
- 5 ф Илязована бригада ?
- Фатма с Тахире избега.  
Майка й си й викаше:  
— Върни са, Фатмо, върни са,  
върни са, Фатмо, върни са !
- 10 Боба ти ше на прибие.

— Не мога, майчо, не мога,  
йе не съм вече момиче,

йе не съм вече момиче,  
ам си съм млада невеста.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

## I. 実らぬ恋・不幸な恋

### 1. Ти галиш друга да земеш - I

— Иди ми, севдим, върви ми,  
назат ми немой поглевай.  
Назат ми немой поглевай,  
сърце, ма немой споминай.  
5 Ти галиш друга да земеш  
и друга руса девойка.  
Ти ма щеш виде, юначе,  
какво ща любе да водем,  
какво ща любе да водем,  
10 прис пътен ше ти минавам.

Прис пътен ше ти минавам,  
прис пътен, приз вър къцана,  
та ше ти пукам сърцено,  
зам да ти кажем галене,  
15 зам да ти кажем галене,  
галене, пък не зимане,  
галене, пък не зимане,  
със мене подиграване,  
със мене подиграване,  
20 със мене джумбиш правене.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 2. Ти галиш друга да земеш - II

— Иди ми, севдим, върви ми,  
назат ми немой поглевай.  
Назат ми немой поглевай,  
сърце ма немой споминай.

5 Сърце ма немой споминай,  
ти галиш друга да земеш.  
Ти галиш друга да земеш,  
друга од дручка махала.

10 Ти ма щеш виде, юначе,  
какво ща любе да водем,  
какво ща любе да водем,  
прис пътен ше ти минавам.  
Прис пътен ше ти минавам,  
прис пътен, приз вър къщана,

15 прис пътен, приз вър къщана,  
та ше ти пукам сърчено,  
та ше ти пукам сърчено,  
зам да ти кажем галене,  
зам да ти кажем галене,  
20 галене, пък не зимане.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 3. Душмани какво не правят - I

— Ялай ми, мини, юначе,  
приз мойне равни дворове,  
зам ше ти метнам кичица,  
кичица карамфилова,  
5 кичица карамфилова  
и дручка ран-босилкова !  
Илчиш мериснеш киткана,  
и мине да си споминаш,  
и мене да си споминаш  
10 какво бех уйгун момиче,  
какво бех уйгун момиче  
на снашка тенко, високо,

на снашка тенко, високо,  
на лице бело, черноко,  
15 зам да си любе споминаш  
как са сме другош галили,  
как са сме другош галили.  
Пък нема да са земеме,  
пък нема да са земеме  
20 от сие пусти душмане.  
Душмане какво не правят —  
сторена свадба развалет,  
сторена свадба развалят,  
двамина млади разделет.

4 септември 2002 г.

Фатме Дервишева

### 4. Душмани какво не правят - II

— Китка ти вием, юначе,  
с моине тянки пърскове,  
с китка ти хабер провадам.  
Ф неде ле ми ѝе свадбана,

5 пък ти ф четвартък да дойдеш,  
лишенан да си разделим.  
Моено ала л да ти е,  
твоено твою да си е,

от нема да са земеме  
10 от сия пусти душмане.  
Душмане какво не правят —

сторена свадба развалят,  
сторена свадба развалят  
и нас с теп ше на разделят.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

### 5. Душмани какво не правят - III

— Изин ти давам, юначе,  
къдено ходиш, да гледаш,  
къдено ходиш, да гледаш,  
когано галиш, да земеш.  
5 Когано галиш, да земеш,  
и мене да не забравеш,  
и мене да не забравеш,  
чи са сме мночко галили.  
Чи са сме мночко галили,  
10 галили и драговали,

галили и драговали,  
пък нема да са земеме.  
Пък нема да са земеме  
от сие пусти душмане,  
15 от сие пусти душмане.  
Душмане какво не правят,  
душмане какво не правят —  
сторена свадба развалят,  
сторена свадба развалят,  
10 женени люде разделет.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев и Милен Шаламанов

### 6. Душмани какво не правят - IV

— Од мен ти изин, юначе,  
когано видиш, да галиш,  
когано видиш, да галиш,  
когано галиш, да земеш.  
5 И мене да не забравеш,

че са сме мночко галили.  
Чи са сме мночко галили,  
галили и драговали,  
галили и драговали,  
10 пък нема да са земеме.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

## 7. Тя е на мен душманка

— Ас ходих, Нетке, ф Цариграт,  
тебе та болна оставих  
и пак та болна заварих.  
Яс мислех, чи си умрела,  
5 та дойда да са оженя,  
да зема Ратка попова.  
— Жени са, любе, глави са,  
ама ми Ратка не земай.

Ратка е на мен душманка,  
10 душманка още от малка.  
Нема да ми гледа децана,  
нема да ми реди къщана.  
Ам си ми земи, любе ле,  
Марийка кръгло сираче,  
15 то ше ми реди къщана  
и ше ми гледа децана.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 8. Аз ще стана калугерка

Мала мома цветя брала  
ф мала градинка,  
дето брала, там заспала  
между цветята.  
5 Оддол иде лудо-младо  
и й говори:  
— Стани, стани, хей девойко,  
стани, стига спа.  
Цветя ти са овехнали,  
10 ден си брала ти,

любе ти са оженило,  
ден го любиш ти.  
— Да са жени, да са глави,  
од мен прошка му,  
15 од мен прошка девет пъти,  
а од Бога не.  
Ас ще стана калугерка  
въф манастира,  
черни дрехи ще облека  
20 до черна земя.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 9. Росица роси, девойко - I

— Росица роси, девойко,  
що ти преливат очинки,  
що ти преливат очинки,  
преливат и прекипеват ?

5 — Преливат си ми, пътниче,  
как ми ѝе либе липсало,  
как ми ѝе либе липсало  
цалички девет години,  
цалички девет годинки,  
10 ф курем ми дете остави,  
ф курем ми дете остави,  
куже го мома искутих.  
Куже го мома искутих,  
та му мумаре дойдаха.  
15 Та му мумаре дойдаха,  
нема кой да хи дочека,  
нема кой да хи дочека,

нема кой да хи испрати.  
— Девойко мари хубава,  
20 да си ти дойде либено,  
да си ти дойде либено,  
пузна ли гу щеш, девойко,  
пузна ли гу щеш, девойко ?  
— Пузнавам си гу, пътниче,  
25 пузнавам си гу, пътниче,  
мойно ѝе либе личничко,  
мойно ѝе либе личничко,  
на лева вешка белешка,  
на лева вешка белешка,  
30 на десна ръка шест пърста.

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева

## 10. Росица роси, девойко - II

— Росица роси, девойко,  
що ти преливат очинки,  
що ти преливат очинки,  
преливат и прекипиват ?  
5 — Преливат си ми, пътниче,  
как ми е либе липсало,  
как ми е либе липсало,  
ф корем ми дете остави,  
ф корем ми дете остави,  
10 коже го мома искутих,  
коже го мома искутих,

та му момаре дойдаха.  
— Девойко майри хубава,  
да си ти дойде любено,  
15 да си ти дойде любено,  
позна ли гу щеш, девойко ?  
— Познавам си гу, пътниче,  
мойно ѝе любе личничко,  
мойно ѝе любе личничко,  
20 на лева вешка белешка,  
на лева вешка белешка,  
на десна ръка шест пърста.

22 март 2002 г.

Фатме Дервишева

## 11. Ожени ми се гальовничката

- Мале ле, мале, стара майчице,  
ожени ми са гальовничкана,  
ожени ми са гальовничкана,  
гальовничкана, първоно любе.
- 5 То да отиде на друго село,  
ам си остана фсраде селоно,  
ам си остана фсраде селоно,
- фсраде селоно вър мойна къша,  
фсраде селоно вър мойна къша,  
10 да са расхада, да са растипа  
по равни дворе, по летви пъте.  
Пък ме налита беля да сторем,  
беле да сторем на цало село,  
на цало село, нехи най-млочко.

22 Март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## 12. И мене да рукаш на твоята сватба - I

- Жени са, глави, ой първо любе,  
ага са жениш, жениш и главиш,  
и мен да рукаш на твояна свадба  
и йе ше дойдам на твояна свадба.
- 5 Кон ше ти държем, дор го вьсседнеш,  
кон ше ти водем до вър дома ти,  
кон ше ти водем до вър дома ти.
- Ратай ше ти съм до три години,  
ратай ше ти съм до три години,  
10 дорде си родиш първана рожба,  
пък ко не родиш първана рожба,  
дано останеш млада довичка,  
дано останеш млада довичка,  
и йе аргаче бес паричка.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 13. И мене да рукаш на твоята сватба - II

- Жени са, глави, ой първо любе,  
ага са жениш, и мен да рукаш,  
и мен да рукаш на твояна свадба,
- 5 кон ше ти държам, дор го вьсседнеш,  
кон ше ти държам, дор го вьсседнеш,  
кон ше ти водем до вър дома ти,



кон ше ти водем до вър дома ти,  
рагай ше ти съм до три годинки,

рагай ше ти съм до три годинки,  
10 дорде ми родиш мъшкан рожба.

4 септември 2002 г.

Фатме Дервишева

#### 14. Любето ти се ожени

Ходил бе Стоян, ходил бе  
цалички девет години,  
на десетана година  
Стоян са ф село завърна.  
5 Още от конен не бе слел,  
майци му селем не бе дал,  
пък за либено питаше:  
— Мале ле, стара майчице,

нарасло ли йе любено,  
10 рубана вдигнало ли е,  
друшкине стигнало ли е ?  
— Синко Стояне, Стояне,  
любено ти са ужени,  
мъшка йе рожба родила,  
15 на тебе го йе писала  
на тебе, синко Стуюне.

22 Март 2002 г.

Бистра Гаджева

### Ж. 嫉 妬

#### 1. Девојка отравя невестата на любето си

— Айшо чернока, каматна,  
кому си вършиш басмана ?  
— Тебе е вършем, Асане,  
тебе ше да са погиздем.  
5 — Ку йе за мене, та немой,

мен йе са сноци довеле,  
с очи не йе съм поглевал,  
с ръки не йе съм допирал.  
Айше си тръсна басмана,  
10 неодвършенка е надена,

нарами бели бакъре  
през Асанвине дворове  
за бистра вода студена.

— Пийни, невесто, водица !  
15 Лу кайно пийна и охна,  
олеле любе, отида.

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## 2. С какво ще те закича

Снощи ми ходих на меже,  
ага са върнах од меже,  
ага са върнах од меже,  
Ахмете найдах ф киткине,  
5 Ахмете найдах ф киткине,  
анни хи с ножен дробеше,  
анни хи с ножен дробеше,  
другине с кундри таптеше,

другине с кундри таптеше.  
10 — Ахметъ, севде голема,  
Ахметъ, севде голяма,  
защо ми режеше киткине,  
защо ми режеше киткине,  
киткине ранен босилек,  
15 киткине ранен босилек,  
със кина ше та закичем ?

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

## 3. С кундри китките тъпчеше

— Юначе лудо и младо,  
ти ли ми флезе в бахчена ?  
Ти ли ми флезе в бахчена,  
ти ли ми убра киткине ?  
5 Ти ли ми убра киткине,  
киткине ранъен босилек ?  
Кутро та дете гледало,  
та йе на майка казало.

Та та йе майка гледала  
10 од високине одае,  
од високине одае,  
га и с ръкине береше,  
га и с ръкине береше,  
с ножен и тютюн дробеше,  
15 с ножен и тютюн дробеше  
и с кундрине и тъптеше.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## К. 浮気・道ならぬ恋

### 1. Расти ми, расти черешко - I

Расти ми, расти, черешко,	нахвътре да ми не гледа.
големка да ми нарастеш	Срам ма йе, йоще грех ма е,
барабар със пенжуркине,	любено съм го сменила,
пенжурки да ми запушиш,	любено съм го сменила,
5 зам га ми върви любено,	10 на друго любе измет ше правем.

6 септември 2002 г.

Салих Делисалихов

### 2. Расти ми, расти, черешко - II

Расти ми, расти, черешко,	нахсрещу да ми не вардем,
височка да ми нарастеш,	10 ага ми вървет агине,
височка да ми нарастеш	ага ми вървет агине
сас пенджуркине барабар,	приз дървенана кюприе,
5 сас пенджуркине барабар,	приз дървенана кюприе
пенджурки да ми прикриеш,	въз зеленана ливада,
пенджурки да ми прикриеш,	15 въз зеленана ливада
нахсрещу да ми не вардем,	нах шеренана джемие.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 3. Още ми мерак остана

— Фчера ми ходих, майчинко,	та срещнах мома хубава,
на долничкана махала.	5 та срещнах мома хубава
Ага са върнах нагоре,	ф тесноно длего сукаче,

ф тесноно длего сукаче  
сюлюмка да са разминем.  
Още ми мерак остана,  
10 пък те е била главена.  
Нема да гледам главена,

главена, с пръстен сменена:  
“Гледа шеш, гледа, юначе,  
чи ти шат тури, юначе,  
15 на ръки ситни синжире,  
на ноги тешки букае.”

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

#### 4. Малките моми да галиш, големите да мамиш

— Девойко мари хубава,  
кина ми найде махана,  
та са от мене отказа,  
та са от мене отказа,  
5 та са от мене отказа,  
та ми лишенан развърна,  
та ми лишенан развърна ?  
— Махана ти бе, юначе,

махана ти бе, юначе,  
10 де има меже, попрелка,  
ти фсека вечер там да си,  
ти фсека вечер там да си,  
ти фсека вечер там да си,  
малкине моми да галиш,  
15 пък големине да мамиш.

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

#### 5. Как да разшenea сърцето ти

— Девойко, сърце шенлифко,  
секемо сърце расшени,  
секемо сърце расшени,  
ам мойсо сърце почерни.  
5 Ха да го сторим, девойко,  
и мойсо да го расшениш.  
— Как да го, лудо, расшенем,

га ти йе млада женана,  
га ти йе млада женана  
10 и ти са дребни децана ?  
— Девойко, мари, хубава,  
немой ми гледай женана,  
немой ми гледай децана,  
сърцесо ми е шенлифко.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## 6. Ако си търнал за моми

- Фатма низ одер, въз одер,  
Фатма нис скали, въз скали  
бела коприна преприда.  
Мехмет прис пътен вървеше,  
5 Фатме Мехметъ му думаше:  
— Къде си търнал, Мехметъ ?  
— Йе си съм търнал, Фатмину,
- на Смелен моми да галем.  
— Иди ми, върви, Мехметъ,  
10 ако си търнал за моми,  
дано са назат не върнеш,  
дано са назат не върнеш,  
дано ти дойдат дрипини,  
после дрипине хаберен.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 7. Ще те приследя, ако се вярно прекълнеш

- Фатма низ одер, въз одер,  
Фатма низ одер, въз одер  
бела коприна преприда,  
бела коприна преприда  
5 и крехко си са отсмива,  
одде йе Мехметъ уварди.  
— Фатминко, чапкън девойко,  
Фатминко, чапкън девойко,
- дали не щеш ма преследи ?  
10 — Преследи та ща, Мехметъ,  
преследи та ща, Мехметъ,  
ако са верно прекълнеш,  
че немаш севде и друга,  
че немаш севде и друга,  
15 че немаш дребни дечинки.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## 8. Моето любе виждаш ли - I

- Месечинко лъо, грейлифка,  
грейлифка и светалифка,  
ти грееш по целия свет,  
грееш ли Драма, Кавала ?  
5 Грееш ли Драма, Кавала
- и мойно любе грееш ли ?  
Збират ли моми седенки,  
либе до любе седет ли ?  
Любе до любе седет ли,  
10 до мойно любе кой седи ?

— Седи ми, седи, девойко,  
бело, черноко момиче,  
чашка му вино даваше  
и хитро си го питаше.

15 И хитро си го питаше:  
“Юначе, жинено ли си,  
юначе, женено ли си,  
юначе, главено ли си ?”

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

### 9. Моето любе виждаш ли - II

— Месечинко льо, грейлифка,  
грейлифка и светкалифка,  
ти грееш еце широчко  
и седиш еце височко,  
5 нашено село грееш ли ?  
Моено любе виждаш ли,  
збират ли моми попрелки,  
попрелки и поседелки ?

Любе до любе седят ли,  
10 до мойно любе кой седи ?  
— Седи ми седи, юначе,  
бело черноко момиче,  
чашка му вино даваше  
и тихичко го питаше:  
15 “Юначе, женено ли си,  
юначе, главено ли си ?”

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

### 10. Ой кукувичке, не виждаш ли моето любе

— Ой, кукувичке, ти летно пиле,  
височко фъркаш, широчко гледаш.  
Не виждаш ли ми моено любе ?  
— Виждам го, виждам, ой малка моме,

5 във Цариграда във механана  
на стол седедше, вино пиеше,  
на стол седедше, вино пиеше  
и з друго любе каул правеше.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 11. С борница я доведи

Пуста ти, ингьо, межена,  
межена и попрелкана,  
га нема сестра ти Финка.  
Дали не ѝе си рукала,

5 дали не ѝе си рукала,  
или не ѝе са пуснали ?  
Иди ѝе, ингьо, порукай,  
съз борница ѝе доведи.

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## L. 恋の戯れ歌

### 1. Да не те галят момите - I

Ку ти съм китка давала,  
ку ти съм китка давала,  
та ти е съм енкас давала  
да та не галят момине,  
5 да та не галят момине,  
момине и невестине.  
Ње кайно тебе да зберам,  
ѝе кайно тебе да зберам,  
пълан ща харем напълни,  
10 тебе ща порта нагоди,  
тебе ща порта нагоди

да та отварет, затварет,  
да та отварет, затварет,  
да та отварет, затварет  
15 със каносанки ръчинки  
момине и невестине,  
момине и невестине,  
със каносанки ръчинки,  
със каносанки ръчинки,  
20 със каносанки ръчинки,  
съз бормосанки пърскове.

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## 2. Да не те гаят момите - II

Ку ти съм китка давала,	йе кайно тебе да зберах,
ку ти съм китка давала,	йе кайно тебе да зберах,
та ти е съм енкас давала	пълан ща харем напълни,
да та не гаят момине,	10 тебе ща порти нагоди
5 момине хем невестине,	да та утварят, затварет
момине хем невестине	момине и невестине.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 3. На шега го е любила

Тудорка турчин любила, мари,	турчин си шека не знае,
те го йе шека любила,	5 той си мумаре испраща, мари,
те го йе шека любила, мари,	на тодоркине дворове.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 4. Не съм от каматните, нито от работните

— Не фалем ти са, юначе,	Мен ма йе майка учила
йе не съм от каматнине,	под орех сенка да седнем,
е не съм от каматнине,	под орех сенка да седнем,
не съм ни от работнине —	10 белосо лице да мием,
5 фурка, вретено не знаем,	белосо лице да мием,
въф станан не съм флизала.	чернаса коса да чешем.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева



## 5. Ако си търнал, любе ле

— Ако си търнал, любе ле, кер да кероваш, кер да кероваш, любе ле, и да печелиш,	Пък ку си търнал, любе ле, моми да галиш, пък ко си търнал, любе ле, 10 моми да галиш, здрав да ми идеш, любе ле, по-здрав да дойдеш.
---	--

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 6. Море, имаш ли първо любе

— Море, имаш ли си, моме, червена кърпа,  
море, имаш ли си, моме, червена кърпа,  
или да ти купя, моме, или да ти купя ?

— Море, купи, купи, море, ой лудо-младо,  
5 немам що да носям, лудо, немам що да носем.

— Море, имаш ли си, моме, алено герданче,  
море, имаш ли си, моме, алено герданче,  
или да ти купя, моме, или да ти купя ?

— Море, купи, купи, море, ой лудо-младо,  
10 немам що да носям, лудо, немам що да носем.

— Море, имаш ли си, моме, сърмено коланче,  
море, имаш ли си, моме, сърмено коланче,  
или да ти купя, моме, или да ти купя ?

— Море, купи, купи, море, ой лудо-младо,  
15 немам що да носям, лудо, немам що да носям.

— Море, имаш ли си, моме, до първо любе,  
море, имаш ли си, моме, до първо любе,  
или да ти станам, моме, или да ти станам ?

— Море, имам, имам, море, до първо любе,  
20 и мъшко дете, лудо, и мъшко дете.

11 март 2003 г. Рамадан Койнарчев

## 7. Гледай ме, гледай, ой първо любе

—	Гледай ма, гледай, любе, гледай ма, гледай, гледай ма, гледай, ой първо любе, та са нагледай,	25	—	Купи ми, купи, любе, купи ми, купи, купи ми, купи, ой първо любе, бела помада, купи ми, купи, ой първо любе,
5	гледай ма, гледай, ой първо любе, та са нагледай ! Днеска съм тука, любе, днеска съм тука, днеска съм тука, ой първо любе,		30	бела помада ! Да се намажа, любе, да се намажа, да се намажа, ой първо любе, щото съм черна,
10	утре ма нема, днеска съм тука, ой първо любе, утре ма нема. Утре ше идам, любе, утре ше идам,		35	щото съм черна, ой първо любе, черна и грозна. Купи ми, купи, любе, купи ми, купи, купи ми, купи, ой първо любе,
15	утре ше идам, ой първо любе, на панаиран, утре ше идам, ой първо любе, на панаиран. Ръчай, поръчай, любе,		40	силна отрова, силна отрова, ой първо любе, да се отровям ! Да се находиш, любе, да се находиш,
20	ръчай, поръчай, ръчай, поръчай, ой първо любе, що да ти купя, ръчай, поръчай, ой първо любе, що да ти купя !		45	да се находиш, ой първо любе, с моине друшки, да се находиш, ой първо любе, с моине друшки.

50 С моине друшки, любе,  
с моине друшки,  
с моине друшки, ой първо любе,

първи душманки,  
с моине друшки, ой първо любе,  
първи душманки.

22 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## V. 家族

### A. 母と娘

#### 1. Любе да си избира - I

— Молих та, молих, майчинко,  
да ма не женеш, ни главиш  
още лу сае годинка,  
лу сое летен ден байрем

5 лефтера да си походем  
и любе да си избирам,  
каквоно мене екранан,  
екранан и прилегана.

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

#### 2. Любе да си избира - II

— Молих та, молих, майчинко,  
не можих да та измодем,  
не можих да та измодем  
да ма ни жениш, ни главиш,  
5 да ма ни жениш, ни главиш  
лу соје летан ден байрем,  
лу соје летан ден байрем

лефтерка да си походем,  
лефтерка да си походем  
10 и любе да си избирам,  
и либе да си избирам  
дено ѝе мене ѝекрана,  
дено ѝе мене ѝекрана,  
каквоно мене прилега.

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

#### 3. Как да те не женя, когато е хубаво копеле

— Молих та, майчо, молих та,  
не можих да та измодем,

не можих да та измодем  
да ма ни жениш, ни главиш,

5 да ма ни жениш, ни главиш  
барем луй сае годинка,  
барек луй сае годинка.  
— Каг да та, дъщеро, не жинем,  
каг да та, дъщеро, не жинем,  
10 не жинем, дъщеро, не главем,  
не жинем, дъщеро, не главем,  
га ѝе хубаво копеле,  
га ѝе хубаво копеле,  
пък нима време да чека,  
15 пък нима време да чека.

— Поди му, речи, майчинко,  
поди му, речи, майчинко,  
ако ма чека, да чека,  
ако ма чека, да чека,  
20 пък ку ма не ще, лу ка ще,  
пък ку ма не ще, лу ка ще,  
мен си ѝе дручки дохадат,  
мен си ѝе дручки дохадат,  
йот нега дваш по-хубави,  
25 йот нега дваш по-хубави,  
йот нега триш по-каматни.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

#### 4. Да умреш, майко, дето ме роди хубава

Излезох да се расходя, леле,  
излезох да са расходя, леле,  
ис това поле широко, леле,  
ис това поле широко.  
5 Намерих едно момиче, леле,  
намерих едно момиче, леле,  
на мермер камък седеше, леле,  
на мермер камък седеше.

Роса си коса решеше, леле,  
10 роса си коса решеше, леле,  
майка си люто кълнеше, леле,  
майка си люто кълнеше:  
— Да пукнеш, майко, да умреш, леле,  
да пукнеш, майко, да умреш, леле,  
15 дето ме роди хубава, леле,  
дето ме роди хубава.

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

#### 5. Лягам невеста, ставам момиче - I

— Кути ма, майчо, кути ма,  
та ма големка искути,  
че си ма даде, майчинко,

ф Лесково, село големо,  
5 на Лескофскана бодала.  
Дено са нищо не сета,

вечеро легам невеста  
със раскопченко елече,

вутерно станвам момиче  
10 със закопченко елече.

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

## 6. Лягам невеста, ставам момиче - II

— Кути ма, майчо, кути ма,  
та ма големка искути,  
че си ма даде, майчинко,  
фъф Лескофскана махала,  
5 фъф Лескофскана махала  
на лескофскана бодала.  
Дено са нищо не сета,  
вечеро легам невеста,

вечеро легам невеста,  
10 вутерно станвам момиче.  
Вечеро легам, майчинко,  
със раскопченко елече,  
вутерно станвам, майчинко,  
съз закопченко елече,  
15 буски му давам да рѣба,  
пък то са назад отсува.

11 септември 2002 г.

Рамадан Койнарчев

## 7. Конакът сърце не шени

— Фатме, майчина дъщеро,  
хич немой бално да ти ѝе,  
хич немой бално да ти ѝе,  
оти ѝе малък юнакан,  
5 оти ѝе малък юнакан,  
ве ти ѝе висок конакан.  
— Майчинко, мое майчинко,  
конакан сърце не шени,  
конакан сърце не шени,

10 ам си го шени юнакан,  
ам си го шени юнакан.  
Каг да го, майчо, заведам,  
каг да го, майчо, заведам,  
те ше ма видет друшкине,  
15 те ше ма видет друшкине,  
та ше ми рекат, майчинко,  
та ше ми рекат, майчинко:  
“Друшчице мое севгелна,

друшчице мое севгелна,  
20 чем кога го си родила,

чем кога го си родила,  
та го си ей тей завела.”

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

## 8. Вятър му духнал имане

Од голем байрем до малък  
че три са свадби станали,  
двене са еце шенливи,  
аннана кимна, кахърна,  
5 аннана кимна, кахърна,  
пък ѝе майка хи питаше:  
— Оти си, мари, кахърна ?  
— Майчинко, стара майчинко,  
каг да не ми съм кахърна,  
10 приз гора не ѝе дружина,  
приз гора не ѝе дружина,  
прис сило не ѝе прилега,  
прис село не ѝе прилега,  
га ми са смейет друшките,  
15 га ми са смейет друшките:  
“Друшчице мила, сребърна,  
друшчице мила, сребърна,

чи кога го си родила,  
чи кога го си родила,  
20 та и на госте завела.”  
— Дъщеро мое, майчина,  
немой ми гледай либено,  
немой ми гледай либено,  
ам си му гледай имане,  
25 ам си му гледай имане,  
имане, бели конаци,  
имане, бели конаци,  
пълни сандъци алтъне.  
— Майчинко, мое майчинко,  
30 ръжда му ѝели алтъне,  
ръжда му ѝеле алтъне,  
ветер му духнал имане,  
ветер му духнал имане,  
га ми ѝе любе будала.

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

## 9. Ръжда му яла парите

— Съллива, снахо, дремлива ?  
— Не съм, анайко, съллива,  
не съм, анайко, съллива,

ам съм чернока, мренока,  
5 ам съм чернока, мренока.  
Снощи съм меже имала,

снощи съм меже имала,  
врит беха, мари, дошлили,  
врит беха, мари, дошлили,  
10 мойно бе либе най-накрай,  
мойно бе любе най-накрай,  
мойно бе любе най-грозно.  
— Невесто млада, зелена,  
немой му гледа грозноно,  
15 ам си му гледай имане,  
пълни сандъци и жълтици,  
пълни сандъци и жълтици,

8 септември 2003 г.

пълни хамбаре със жито,  
пълни хамбаре със жито,  
20 пълна градина с кошове.  
— Майчинко, мое майчинко,  
не ща му, майчо, имане,  
не ща му, майчо, имане,  
ръжда му йело парине,  
25 ръжда му йела парине,  
юда вдигнала кошове,  
юда вдигнала кошове,  
га ми йе грозно либено.

Фатме Дервишева

### 10. Ти пукна, та ме заглави

— Майчинко, мое майчинко,  
ти пукна, та ма заглави,  
ти пукна, та ма заглави,  
та ма черничка почерни,  
5 та ма черничка почерни,  
та ми либено юдели,  
та ми либено юдели.  
Гланна бе, наиде ли са,  
гланна бе, наиде ли са,

13 септември 2003 г.

10 морна бе, йотмори ли са,  
морна бе, йотмори ли са,  
гола бе, йоблека ли са ?  
— Дъщеро мое, майчина,  
немой ми пукай сърцено,  
15 немой ми пукай сърцено,  
приз вечерка съм легнала,  
приз вечерка съм легнала,  
прис прогюмка съм станала.

Небие Дервишева



## В. 父と娘

### 1. Погледни твоята малка дъщеря

— Излези, Мехмет, погледни	как яде дребан армаган,
твояна малка дъщеря,	как яде дребан армаган.
твояна малка дъщеря	Самичка си гу извада,
как седи на skut Осман му,	самичка си гу извада
5 как седи на skut Осман му,	10 от киченкуну пойсече.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## С. 母と息子

### 1. Вземи се, сине, ожени

— Стига си ходил, сино лъо,	найди си енно момиче
стига си ходил, сино лъо,	на осемнайсет години,
по села и по градове,	на осемнайсе години,
стига си лъгал момине,	на осемнайсет години,
5 стига си лъгал момине,	15 деветнадесе почнало,
стига си лъгал момине	деветнадесе почнало.
и младичкине невести,	— Да знаем, майчо, да знаем,
и младичкине невести.	да знаем, майчо, да знаем,
Земи са, сине, ожени,	се ща бекерен да ходем,*
10 земи са, сине, ожени,	20 пък нее нема да земам.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

\* 歌い手の Бистра Гаджева さんは、この一行を **никога нема да земам** と歌ったが、そばで聴いていた Фатме Дервишева さんに歌詞の誤りを指摘されて上記のように歌い直す。

## 2. Искат ме заврян зет да ида

— Искат не, мачо, молет ма	курникан със кукушкине,
заврен зет, майчо, да ида,	курникан със кукушкине,
заврен зет, майчо, да ида,	барабар з двана петела,
дават ми, майчо, дават ми,	барабар з двана петела,
5 дават ми, майчо, дават ми	10 момана, майчо, з детено.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 3. Учи ма, майчо, как да измамя момата

— Учи ма, майчо, научи	с аблиноно ти гиздило
как да измамем момана.	10 и сенни блиско до нее,
— Учих та, синко, учих та,	та си йе хитро попитай
не можих да та научем.	кому йе карши седела,
5 Абла ти меже ше има,	кому йе карши седела,
долна и горна махала	седела напук гълчела,
и те ще, синко, да дойде.	15 кому йе лишин държела,
Тога са, синко, премени	държела, назад връщала.

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

## 4. Глава ли те боли, сине мой - I

— Глава ли та боли, сине мой,	глава ли та боли, сине мой,
глава ли та боли,	или половина ?

5 — Не ма глава боли, мамо ма,  
не ма глава боли,  
не ма глава боли, мамо ма,  
нито половина.  
Сърцесо ма боли, мамо ма,  
10 сърцесо ма боли  
за сношнана вечер, мамо ма,  
за сношноно любе.  
Иди ми я искай, мамо ма,

иди ми я искай,  
15 дано ми е дадат, мамо ма,  
булка да ми стане.  
— Ходих, сине, ходих, сине мой,  
ходих, сине, ходих,  
две е булки плетат, сине мой,  
20 невеста търнова,  
две е булки плетат, сине мой,  
невеста търнова.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

### 5. Глава ли те боли, сине мой - II

— Глава ли та боли, сине мой,  
глава ли та боли ?  
— Ни ма глава боли, мамо мар,  
сърцето ма пари.  
5 Сърцесо ма пари, мамо мар,  
сърцесо ма пари  
за сношниян вечер, мамо мар,  
за сношнана меже,  
за сношнана меже, мамо мар,  
10 за сношнана меже,  
за сношноно любе.  
Иди ми ѝе искай, мамо мар,

иди ми ѝе искай,  
иди ми ѝе искай, мамо мар,  
15 дано ми ѝе дадат.  
Пък ко мѝ е не дадат, мамо мар,  
пък ко мѝ е не дадат,  
ко ми ѝе не дадат, мамо мар,  
комита ше станам.  
20 Комита ше станам, мамо мар,  
комита ше станам,  
комита ше станам, мамо мар,  
фъв гора зелена.

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

### 6. Глава ли те боли, сине мой - III

— Глава ли та боли, сине мой,

глава ли та боли,

глава ли та боли или половина ?  
— Не ма глава боли, мамо ма,  
5 не ма глава боли, нито половина.  
Сърцето ма боли, мамо ма,  
сърцето ма боли за сношнана вечер,

за сношнана вечер, мамо ма,  
за сношнана вечер, за сношнине моми  
10 за сношнине моми, мамо ма,  
за сношнине песни.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 7. Каж ми, майчо, коя от трите да взема

— Майчинко, мое майчинко,  
загалих, майчо, три моми,  
загалих, майчо, три моми,  
три моми, три хубавици.  
5 Първа ма моли с имане,  
фтора ма моли з дюкяне,

фтора ма моли з дюкяне,  
трета ма моли със хубост.  
Каж ми, майчо, каж ми  
10 коя от трине да земам.  
— Земи си, синко, земи си  
третана, най-хубавана.

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

### 8. Изсъгнах, извехнах за двете моми

— Иссъгнах, майчо, извейгнах  
за двене моми ф селоно,  
за двене моми ф селоно,  
ищам ги, не дават ми ги,  
5 да рекам да йе окрадам.  
— Казват ми джеза голема,  
казват ми джеза голема,  
девет години да лежем,

девет години да лежем,  
10 десет хиляди да броя.  
— Да знаем, майчо, да знаем  
двайсет години да лежем,  
двайсет години да лежем,  
трийси хиляди да давам,  
15 трийси хиляди да давам,  
пък ща еднана да земам.

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## 9. Как да те рачи, девойко

- Кичи са, згадай, девойко,  
зам майка да та бендиса,  
зам майка да та бендиса  
за снаха и за невеста !
- 5 — Стига ма лъжи, юначе,  
врици киткине укъцах,  
врици киткине укъцах,  
босилекан си юмъкнах,  
пък ма майка ти не рачи,  
10 не рачи, не бендисува.
- Каг да та рачи, девойко ?  
Снощи сме меже имали,  
снощи сме меже имали  
горна и долна махала,  
15 врид беха, мари, напрели  
по три по четри вретена,  
пък ти си, мари, напрела  
едно полвинка вретено,  
триш го ѝе майка мотнала,  
20 триста ѝе възли вързала.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

## 10. Галем я и ще я вземам

- Загалих, майчо, залюбих  
една ми мома смоленка,  
една ми мома смоленка  
от Райкофскана махала.
- 5 Галем ѝе, майчо, галем ѝе,  
галем ѝе и ше ѝе зема.  
Ага за Смолен търнеме  
приз роженскана барчина,
- приз роженскана барчина  
10 чиф щеме пушки да пукнем,  
чиф щеме пушки да пукнем  
да чуе мома смоленка,  
да чуе мома смоленка,  
чи сме за нее търнали,  
15 чи сме за нее търнали,  
търнали и ше ѝе земем.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 11. Любето ми се ожени

Хасан ми свири ф усойе  
с негови желни кавале.

Пък го майка му питаше:  
— Защо ми свириш, сино лъо,

5    защо ми свириш, сино лъо,  
дали за лето-пролето,  
дали за лето-пролето  
или за зима-подзима ?

— За сичко има, майчинко,  
10 по-млогоно йе за любе,  
по-млогоно йе за любе,  
любено ми се ожени.

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## 12. Сино лъо, утре ще те главим

— Кукувичкана кукува  
ф честана гора зелена,  
мен на сърцено препада,  
препада и премалева.  
5 Дали ща болан да лежем,  
или ща болни да гледам ?  
— Сино лъо, мое майчини,

ни щеш ни болан да лежиш,  
ни щеш ни болни да гледаш,  
10 ам ше та утре главиме,  
ам ше та утре главиме  
на Екфе бела чернока,  
на Екфе бела чернока,  
на Екфе тенка височка.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## D. 母と息子と娘

### 1. Дойдоха Елени далечни момари

Имала е майка сина Костадина,  
сина Костандина, дъщеря Елена.  
Дойдаха Елени далечни момаре,  
Костадин е дава, майка я не дава.  
5 Костадин й вика: — Дай е, маре, дай е,

да се находиме на далеч на гости,  
да са находиме на далеч на гости,  
да се наяздиме на вранните коне.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

## Е. 夫婦

### 1. Едно не си ни донела

— Невесто млада, зелена, ти чула ли си, невесто, ти чула ли си, невесто, майка и багъо що думат, 5 майка и багъо що думат ? Те думат да та паресат. — Че защо да ма паресат, малко ли съм и донела, малко ли съм и донела ? 10 Донела и докарала девет товара халица,	отузик руба червена, отузик руба червена, мулетана с рагайене, 15 мулетана с рагайене, офцине със офчерене. — Невесто млада, зелена, ти ни си сичко донела, ти ни си сичко донела, 20 анно не си ни донела, анно не си ни донела, момиче не си дошлала.
---	---

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

### 2. Майка не те рачи, оти алтъни не носиш

— Юначе вакъл, каматан, каква ми найде махана,	каква ми найде махана, та са од мене отказа ?
---	--

5 Бела ли не съм, чернока,  
тънка ли не съм, висока,  
руба ли не съм дунела?  
— Дунела и докарала,  
ти ми си руба донела,  
10 донела и докарала,

ала та майка не рачи,  
оти алтъне не носиш,  
оти алтъне не носиш,  
алтъне, бели грошове,  
15 ами си, мари, ходила  
съз друго момче комшийче.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 3. Малко е чорбата, дълга е зимата

— Дъщеро майчна, мари,  
де ти ѝе любено ?  
— Ей го там ф кюшана, мари,  
рассърдило са е,  
5 отъ му съм сварила, мари,  
зелена коприва  
и му съм реклала, мари,

“Придотин придоцки,  
полека загрибвай, мари,  
10 попълни лъжици,  
малко ѝе чорбана, мари,  
длега ѝе зимана,  
длега ѝе зимана, мари,  
много са децана.”

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

### 4. Ой кукувичке, ти лятно пиленце - I

— Ой, кукувичке, ти летно пиленце,  
височко фъркаш, широчко видиш.  
Ой, не виде ли моено любеле ?  
— Видех го, видех, млада невесто,  
5 фъв Гюмюржуне фъв касабана,  
фъв Гюмюржуне фъв механана,  
на стол седедше, кафе пиеше,

друго му любе на скут седеше,  
слатки си думи думаха,  
10 право са ф очи гледаха  
и викат да са йоженет.  
— Ой, кукувичке, ти летно пиленце,  
спусни са ниско над механа,  
механа, черна пуцина.



15   Балан му хабер да кажеш  
      механа на огън да изгори,

харам му правим сичконо.

6 септември 2002 г.

Салих Делисалихов

### 5. Ой кукувичке, ти лятно пиленце - II

— Ой кукувиче, пиле лятно,  
височко фъркаш, широко гледаш.

Ой, не виде ли моято любе ?

— Видех го, видех, млада невесто,

5   ф Кавала, Драма на стол седеше,

на стол седеше вину пиеше,

на стол седеше вину пиеше,

съз друго любе каул правеше.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

# VI. 社会

## A. 世態

### 1. Равни дворове е размела

- Вий чули ли сте, не ли сте,  
кина ѝе ново станало,  
кина ѝе ново станало  
на беличконо коначе ?  
5 Хасъе ѝе рано станала,  
ранко е вода дунела,  
ранко е вода донела,
- равни ѝе дворе размела  
съз босилкова метлица.  
10 Колкофно мете метлана,  
колкофно мете метлана,  
два дела мете рискана,  
два дела мете рискана,  
три дела метат шелваре.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 2. Кому какво е липсало - I

- Събрали са са, събрали  
на мижувине дворове,  
на мижувине дворове,  
мижумо кепе да предат.  
5 Прели са, колко прели са,  
че та са и полегнали,  
че та са и полегнали,  
че та са и позаспали.
- Ага са от сън станали  
10 една са мома разрука:  
— Станите, друшки, да видим  
кому кина ѝе липсало,  
кому кина ѝе липсало.  
— Мен са шалваре украли,  
15 мен са шалваре украли.  
Кутро ли ги мъско пличкоса ?

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

### 3. Кому какво е липсало - II

- Търнали ми са, търнали  
долна и горна махала,  
долна и горна махала  
на средничкана на меже.
- 5 На средничкана на меже  
седели, колко прели са,  
седели, колко прели са,  
фтори са петли попели.
- Фтори са петли пупели,  
10 тъшка и дремка налегна.  
Легнали, та са заспали,  
еднаса мома изрука:  
— Станите, друшки, станите,  
кому кина ѝе станало,  
15 кому кина ѝе станало ?  
Мен са герданче украли.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 4. Вие чули ли сте, не ли сте

- Ве чули ли сте, не ли сте, ох леле,  
кина ѝе ново станало,  
кина ѝе ново станало, ох леле,  
ф Стърница село голямо ?
- 5 Зайде ѝе ранко станала, ох леле,  
младочни крави да пасе,  
младочни крави да пасе, ох леле,  
вѝс папративи ливади,  
вѝз папративи ливади, ох леле,  
10 вѝз гевазвана бичкие.
- Че си ѝе Зайде фатиха, ох леле,  
орлофски вѝкли офчере,  
орлофски вѝкли офчере, ох леле,  
пѝк ѝе майка ѝ питаше:
- 15 — Зайдѝо, майчина дѝщеро, ох леле,  
чем де ти са бе мѝркнало ?  
— Мен са бе, майчо, мѝркнало, ох леле,  
на чемладжийски хармане,  
на чемладжийски хармане, ох леле,  
20 на високине кошове.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 5. Лоши сънища е сънила

- Хайде, Марийке, да идем, мари,  
на Рожен на планинана.
- Тамо ще събор да има, мари,  
и тебе свадба ше сторим.

5 Марийки майка думаше, мари,  
— Вървите, друшки, вървите !  
Марийка нема да дойде, мари,  
лоши ѝ сѣне сѣнила  
сѣбота срещу неделя, мари,

10 мѣтна ѝе река текнала,  
мѣтна е река текнала, мари  
низ Марийкини дворове,  
низ Марийкини дворове, мари,  
Марийки любе носеше.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 6. Сурко е пиле стѣпило - I

Сурко ѝе пиле стѣпило, мари,  
на червен калем ѝебѣлка,  
на червен калем ѝебѣлка, мари,  
нахвѣтре хабер провада,  
5 навѣтре хабер провада, мари,  
навѣтре на кадѣнине:  
— Кадѣни, бели кадѣни, мари,

вам бално не е ставало  
и вам ще бално да стане, мари.  
10 Ф четвѣртѣк ранко вутерна  
конакан ше ви изгори, мари,  
конакан керечлиена,  
конакан керечлиена, мари,  
любено севдалиена.

22 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## 7. Сурко е пиле стѣпило - II

Сурко е пиле стѣпило, мари,  
на червен калем ѝебѣлка,  
на червен калем ѝебѣлка, мари,  
пиленце пейе, говори,  
5 пиленце пейе, говори, мари,  
нахвѣтре хабер провада,  
нахвѣтре хабер провада, мари.

— Кадѣни, бели кадѣни,  
кадѣни, бели кадѣни, мари,  
10 ве бално не сте видвали,  
ве бално не сте видвали, мари,  
и вам ще бално да стане,  
и вам ще бално да стане, мари,  
четвѣртѣк ранко утерна.

15 Четвъртък ранко утерна, мари,  
конакан ше ви изгори,

конакан ше ви изгори, мари,  
конакан със агайено.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев и Фильо Кънчев

## В. 事件

### 1. Как ми кайдиса братчето - I

— Дъщеро моя, майчина,  
оти си суха станала,  
оти си суха станала,  
дел ти ѝе ливо любено,  
5 дел ти ѝе лево либено,  
ил ти ѝе евро детено ?  
— Майчинко, мое майчинко,  
не ми ѝе евро детено,  
не ми ѝе евро детено,  
10 ам ми ѝе ливо любено,  
ам ми ѝе лево любено.  
Сека ми вечер донасе,  
сека ми вечер донасе  
кървави ризи да перам,  
15 кървави ризи да перам,  
остри ножове да мием,  
остри ножове да мием.  
Сноща ми, майчо, донесе,

сноща ми, майчо, донесе  
20 кървави ризи да перам,  
кървави ризи да перам.  
Ага истръсих рискана,  
ага истръсих рискана,  
истръсих десна ръчинка,  
25 истръсих десна ръчинка,  
на ръчинкана пърстенче,  
на ръчинкана пърстенче,  
на пърстенче го познавам,  
на пърстенче го познавам,  
30 чи ми ѝе моето братчеле.  
“Ох леле, любе, ох леле,  
как ми кайдиса братчето,  
как ми кайдиса братчено ?”  
“Тявно бе, мари, мрачно бе,  
35 тявно бе, мари, мрачно бе,  
та ти кайдисах братчето.”

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

## 2. Как ми кайдиса братчето - II

Иссъхни, горо, извехни,  
та стани сухи сухаре,  
та стани сухи сухаре,  
зам да ми дойдат дърваре,  
5 зам да ми дойдат дърваре  
и майка със тех да дойде,  
хитричко да ма попита:  
— Дъщеро мое, майчина,  
оти си саква станала,  
10 каквано суха вейчица,  
дал ти е лево любено,  
ил ти е евро детено ?  
— Майчинко, мое майчинко,  
то да е евро детено,  
15 то да е евро детено,  
кути ща, искути го ща,  
кути ща, искути го ща,  
ам ми е лево любено.

Ката ми вечер дониса,  
20 кървави ризи да перам,  
кървави ризи да перам,  
секане глави да скривам,  
секане глави да скривам,  
остри ножове да мием.  
25 Сноща ми, майчо, донесе  
кървава риза да перам.  
Ага си тръснах рискана,  
истръсих десна ръчинка,  
на ръчинкана пръстенче,  
30 на пръстенен го познавам,  
на пръстенен го познавам,  
че беше мойно братчеле.  
“Ох леле, любе, ох леле,  
как ми кайдиса братчено ?”  
35 “Тевно бе, любе, мрачно бе,  
та ти не познах братчено.”

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## 3. Как ми кайдиса братчето - III

Иссъхни, горо, извейни,  
та стани сухи сухаре,  
та стани сухи сухаре,  
зам да ми дойдат дърваре,  
5 зам да ми дойдат дърваре  
и майка със тех да дойде,  
и майка със тех да дойде,  
хитричко да ма попита:

— Дъщеро мое, майчна,  
10 оти си таква станала,  
дел ти е йевро детено,  
ил ти е лево любено ?  
— Майчинко, мое майчинко,  
то й да е йевро детено,  
15 то й да е йевро детено,  
кути ща, искути го ща,

ам ми е лево любено.  
Насити ми са, майчинко,

кървави ризи перащик,  
20 секани главе скриващик.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

#### 4. Любето ти сме ударили

— Стани ми, Алиьо, отвори, Алиьо,  
стани ми, Алиьо, отвори,  
вашине порти шарени,  
вашине порти шарени, Алиьо,  
5 вашине порти шарени,  
шарени, шар шарени.  
Голем ти хабер носиме, Алиьо,  
голем ти хабер носиме  
од високана планина.  
10 Любено ти сме удрили, Алиьо,  
любено ти сме удрили,

теп та сме на чоп метнали,  
теп та сме на чоп метнали, Алиьо,  
теп та сме на чоп метнали.  
15 Ти са си мене паднала,  
ти ще със мене да дойдеш, Лено Ленче,  
ти ще със мене да дойдеш,  
ти ше ми правиш изметен,  
ти ше ми правиш изметен, Лено Ленче,  
20 ти ше ми правиш изметен,  
ти ше ми вариш кафена.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

#### 5. Ще минем през село, та ще ме види любето

Лисни са, горо, спуши са,  
та скриеш вакъл Мехмете,  
та скриеш вакъл Мехмете.  
Мехметъ е сторил кабахат,  
5 Мехметъ е сторил кабахат,  
руса девойка съсекал,  
руса девойка съсекал,  
та го жандари фатиха,  
та го жандари фатиха,

10 назат му ръки вързаха,  
назат му ръки вързаха,  
напреш му пътен казваха,  
напреш му пътен казваха.  
Мехмет са желно молеше,  
15 Мехмет са желно молеше:  
— Жандаре, мои екташе,  
жандаре, мои екташе,  
попусните ми ръкине,

попусните ми ръкине,  
20 чи щем прес село да минем,  
чи щем прес село да минем,  
та ше ма види либено,  
та ше ма види либено,  
та ше му пукне сърцено,  
25 та ше му пукне сърцено.  
— Хайде ми върви, Мехметьо,

хайде ми върви, Мехметьо,  
не щем през речка да минем,  
не щем през речка да минем,  
30 дорде та метнем в зондана,  
дорде та метнем в зондана,  
девет години да лежиш,  
девет години да лежиш,  
десет хиляди да дадеш.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

## С. 戦争と兵役

### 1. Моето любе немой писувай

— Писвай, расписвай, царско сейменче,  
моено любе немой писувай.  
Ко го си писал, распиши ми го,  
ко ѝе търнало, развърни ми го.  
5 Ко ѝе търнало, развърни ми го,  
зам га са женем, дар ше та дарем.  
Зам га са женем, дар ше та дарем,  
тенки дарове з бели кенаре.

— Хей гиди, гиди, малка девойко,  
10 ѝе не съм търнал дарве да зберам.  
Ње не съм търнал дарве да зберам,  
ами съм търнал хаскер да зберам,  
ами съм търнал хаскер да зберам,  
хаскер да зберам, хем да одберам,  
15 хаскер да зберам, хем да одберам  
бели, черноки, тенки, високи.

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева



## 2. Петърчо, младо войниче

— Петърчо, младо войниче,  
ти ми са збираш, търноваш.  
Ти ми са збираш, търноваш,  
че мене кому оставеш  
5    тянкаса снашка да вехне,  
белосо лице да жълте ?  
Не ли ѝе лесно, нагодно

и е със тебе да дойдам ?  
Ага са, любе, умориш,  
10   пушкана ше ти поносем.  
Ага са, любе, зазноюш,  
знойчекан ше ти пребришем.  
Знойчекан ше ти пребришем  
със аленкосо мендилче.

30 август 2002 г.

Бистра Гаджева

## 3. За голям байрем да дойдеш

— Исплела съм ти, Мехметьо,  
два чифта бели журапе:  
еднине ти да наденеш,  
дручкине, Мехмет, да дадеш,  
5    дручкине, Мехмет, да дадеш  
на твоен ротен командир,  
зам да та пусне, Мехметьо,

за голем байрем да дойдеш,  
за малък, Мехмет, тув да си,  
10   че ми са мене дожило,  
че ми са мене дожило,  
дожило и наситило  
сама самичка да седем  
ф нашено бело коначе.

5 септември 2005 г.

Бистра Гаджева

## 4. Денем телим да играя, нощем табия да копая

Сакова лето-пролето  
дели ѝе буннаш бивало,  
дали ѝе буннаш бивало,  
или ѝе лу мен сакова ?  
5    Когано лефтер да ходем,  
когано моми да галем,

пък те ма писват, привадат  
дювлет му измет да правем  
поденем телим да играм,  
10   понъщам табье да копам.  
Копахме, колко копахме,  
ископах млада невеста.

На ръчинкана пръстенче,  
на пръстенен бе писано:  
15 — Немой ма буди, юначе,  
че съм въз майка анничка,  
че съм въз майка анничка

и въз бубайко самичка,  
та ма са рано вдигали,  
20 рано изметен да сторем,  
рано въз станан да флезам,  
тенки дарове да ткаем.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

### 5. Карши слънце погледни - I

— Майчинко стара, мале ле,  
вутерно ранко станете,  
вутерно ранко станете,  
каршу слънцено погледни,  
5 карши слънцено погледни,  
ку йе слънцено кърваво,  
ку йе слънцено кърваво,  
знай, чи съм паднал шахитин,  
ку йе слънцено шенливо,  
10 знай, чи са назат развърнам.

Майчинко стара, мале ле,  
ако са назат развърнам,  
ако са назат развърнам,  
чиф ще курбане да колям,  
15 чиф ще курбане да колям,  
цело ще село да зберам,  
цело ще село да зберам,  
врит младичкине невести,  
врит младичкине невести  
20 и хубавине девойки.

12 септември 2003 г.

Милко Стефанов

### 6. Карши слънце погледни - II

— Майчинко, стара майчинко,  
вутерно ранко га станеш,  
вутерно ранко га станеш,  
карши слънцено поглевай.  
5 Ко йе слънцено кахърно,

знай, чи съм паннал шейхитин,  
ко йе слънцено шенлифко,  
знай, ше са назат развърнам,  
голема свадба ше вдигнам  
10 със баш момана ф селоно.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

## 7. Войната да се прекрати

Снощи ми писмо допанна  
от Бело море дълбоко,  
от Бело море дълбоко,  
от мойно първо либеле,  
5 от мойно първо либеле,  
писмоно пише, говори,  
писмоно пише, говори:  
— Девойко, майри хубава,  
девойко, мари хубава,  
10 снощи на бежа позбрали,  
снощи на бежа позбрали,  
пълна казарма войници,  
пълна казарма войници,  
войници млади момчета,  
15 войници млади момчета.

Ютре щем на бой да идем,  
утре щем на бой да идем  
на бой на бойска планина,  
на бой на бойска планина.  
20 Там ше са врит предаваме,  
там ше са врит предаваме,  
лу йе нема са предавам,  
лу йе нема са предавам.  
“Предай са, предай, аркадаш,  
25 придай са, придай, аркадаш !  
Тува са либе не гледа,  
тува са либе не гледа,  
тува са гледа войнана,  
тува са гледа войнана,  
30 войнана да са прекрати.”

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

## VII. 勞 働

### 1. Ранко овцете пуснала

Кукувичкана кукова	Нецве ѝе ранко станала,
фъв долничкана махала,	ранко офцене пуснала,
фъв долничкана махала	ранко офцене пуснала
на Нецвинине кичици,	10 въклине офце да пасе,
5 на Нецвинине кичици.	въклине офце да пасе
Нецве ѝе рано станала,	прис тесни длеги сукаце.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 2. Там има води студени

— Ах, да знаеш, майчо, на какво съм место,  
на какво съм место, на равна полена,  
на какво съм место, на равна полена,  
дено вода нема, нито сенка има.

5 Нито вода нема, нито сенка има,  
какво ще да правем мойно вакло стадо,  
какво ще да правем мойно вакло стадо ?

— А бре, сине Стоене, искарай си стадо,  
а бре, сине Стоене, искарай си стадоно,

10 искарай си стадоно въф Ениханска гора,  
искарай си стадоно въф Ениханска гора.

Там има води студени, там има сенки дебели,  
там има води студени, там има сенки дебели,  
там ще да си напоиш твоено вакло стадо.

11 март 2003 г.

Фильо Кънчев

### 3. Овньо льо, височко държи главата

Овньо льо, вакъл каматан,  
дошло е време, овньо льо,  
дошло е време, овньо льо,  
от тува да са вдигаме,  
5 от тува да са вдигаме,  
од високана планина,  
од високана планина,  
утре щем, овньо, да минем,  
утре щем, овньо, да минем,

10 приз нашно село големо,  
приз нашно село големо,  
ситанко стипай с ножинки,  
ситанко стипай с ножинки,  
зам да ми сурнеш альци,  
15 зам да ми сурнеш альци,  
височко държи главана,  
височко държи главана,  
зам да ти цънкат ченове.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

### 4. Пило ли е моето стадо вода

— Димитрице, гиздаво девойче,  
ще та питам право да ми кажеш:  
Пило ли йе мойно стадо вода,  
пило ли йе, подминало ли е ?  
5 — Каго ма питаш, право ще ти кажа:  
Двеста пиха, триста подминаха,  
двеста пиха, триста подминаха,

а петсотин на брега стояха.  
— Димитрице, гиздаво девойче,  
10 земи пръчка, пръчка босилкова,  
та прекарай мойно сиво стадо,  
да си пийне арденска водица,  
да си пийне арденска водица,  
да си пасне зелена тревица.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

### 5. Агоска жетва да жена - I

— Немой ма, майчо, провада  
нах високана планина,  
нах високана планина  
агоска жетва да женам,

5 агоска жетва да женам  
с лудоно младо сейменче,  
с лудоно младо сейменче.  
То ше ми гарски продума,

то ше ми гарски продума,  
10 пък ѝе са гърски не сетам,  
пък ѝе са горски не сетам,  
каг да му гарски отвърнам.

— Иди ми, ворви, дъщеро,  
не ше ти гърски продума,  
15 не ше ти гърски продума,  
дур ѝе агана на мейдан.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 6. Агоска жетва да жена - II

— Немой ма, майчо, привадай  
агоска жетва да женам  
с лудоно младо сейменче,  
че ше ми турски продума,  
5 пък ѝе са турски не съетам,  
каг да му, майчо, отвърнам.  
— Иде ми върви, дъщеро,  
не ше ти турски придума.  
Лу кайно флезе в жътвана,

10 лу кайно флезе в жътвана,  
и той ѝ турски придума:  
— Девойко майери хубава,  
девойко майери хубава,  
бин лира имам ф кемирен  
15 до анна халал да ти са,  
до анна халал да ти са,  
ако ми, майери, кайдисаш  
твоине черни очинки.

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

## 7. Посниши се, Шар планина

Повдигни са, тьовна мъгла,  
поснихчи са, Шир планина,  
да си видям нашно село,  
нашно село, нашна коща,  
5 нашна коща, равни дворе.  
На двор седи стара майка,

на двор седи стара майка,  
на ръки доржи два близнака,  
на ръки държи два близнака,  
10 два близнака, два сирака.  
Едноно пита: — Майка къде ѝе ?  
Другоно пита: — Боба къде е ?

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 8. Мен ме дали на камиляра - I

- Брей офчаро, говедарьо,  
искарай ма од горана,  
от са гора люлекова,  
люлекова, ясенова  
5 да си видим нашо село,  
нашно село, наше къща.  
Мойта майка и бубайко,  
те родили, те кутили  
девет деца момичета,
- 10 та хи дали ф секо село,  
за мен село не остана,  
мен ма дали ф камилярна  
да им пасам камилите,  
хем ги пасам, хем ги кълнам,  
15 хем ги пасам, хем ги кълнам,  
дано пусти опустете,  
денем лежат, ноцем пасат,  
посраде наш вода пиет.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

## 9. Мен ме дали на камиляра - II

- Мойта майка, мойет баща,  
те кутили, те хранили.  
Те кутили, те хранили  
девет деца момичета.  
5 Девет деца момичета  
ф сека село пџ анно дали.  
Ф сека село пџ анно дали,  
за мен село не йостана.  
За менџ село не йостана,
- 10 ама даде ф камиляро,  
ама даде ф камиляро  
да ми пасам камилене,  
да ми пасам камилене.  
Камилене, пуцинине,  
15 камилене, пуцинине,  
дене лежат, нџци пасат,  
дене лежет, нџци пасат,  
посраде наш вода пиет.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

## 10. Брадва му слџнце грееше

- Още не са џе съвнало,  
пиленце в гора запело,  
пиленце в гора запело,  
запело и засвирило.

- 5 Йемин му з брадва прегласе,  
брадва му слънце грееше,  
брадва му слънце грееше,  
трески му далеч фъркаха.
- На ден си Йемин насиче  
10 по седем, осем кубика,  
затова ѝе Йемин награден  
с най-големана награда.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

## 11. Разболя се каква Гана от ТКЗС-то

- Разболе се каква Гана от ТКЗС-то  
и отида каква Гана болки да лекува.  
Пред доктора се исправе и му тѣй хортува:  
— Ох, докторе, ох, боли, лоша болест ме мъчи  
5 од главата ф краката и нагоре ф сърцето.  
Инжекце ѝ той удари да се по-свземе  
и почифка той ѝ даде за по-дълго време:  
— Стой си ф къщи и лежи, на работа не ходи !  
И започна каква Гана да се излежава,  
10 и за работата полска пет пари не дава.  
Мина лято, мина есен, зимата настѣпи,  
и започнаха да плащат трудовните скѣпи,  
без да чака каква Гана, без да губи време,  
но като разбра, че няма нищичко да вземе:  
15 — Ох, докторе, ох, боли, ти виновен си бил ти,  
болеста ми не позна, та лятото пролежах.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева



## VIII. 病と死

### 1. Млада невеста е умрела

Та чули ли сте, не ли сте	Млада невеста легнала,
кина ѝе ново станало,	девет ѝе дене лежела,
кина ѝе ново станало	девет ѝе дене лежела,
в Давудево село големо,	10 на десетно ѝе, хьо-хо, умрела,
5 в Давудево село големо	че фси ѝ селе рокаха,
на средничкана махала ?	цало ѝе село плача.

20 март 2002 г.

Салих Делисалихов

### 2. Дано ми либе разбудиш

Лу ходих, майчо, лу вардих,	15 на листе и на цветове
нийде ми либе не видех,	куквичка извън кукова,
нийде ми либе не видех,	куквичка извън кукова,
никой ми либе не меса,	немой кукувай, куквичко,
5 никой ми либе не меса	немой кукувай, куквичку,
ф снашкана тенък селвие,	20 ям си ми иди, кукувай,
ф снашкана тенък селвие,	ам си ми иди, кукувай
ф рубана ситан терзие,	на шеренана джамие,
ф рубана ситан терзие,	на шеренана джамие,
10 че легна болан да лежи,	на високана минаре,
че легна болан да лежи	25 на високана минаре
на лету и на пролету,	по дваж зафтарей, куквичку,
на лету и на пролету,	по дваж зафтарей, куквичку,
на листе и на цветове,	дано ми либе разбудиш,

дано ми либе разбудиш,  
30 чим ње либено заспало,

чим ње либено заспало  
ф неразбуднине сьнове.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

### 3. Морна коса гнезда вие

Мома седи на њедрове,  
на њедрове на кешкове,  
в десна рька огледало,  
ф лева рька ситан гребен.  
5 Хем са чеше, хем ње пита:  
— Косо, косо, морна косо,  
косо, косо, морна косо,  
кой ше тебе да шенова,

кой ше тебе да шенова,  
10 дали юнак, или довец ?  
— Не би юнак, не би довец,  
ам привали черна земе,  
ам привали черна земе,  
морна коса гнезда вие,  
15 морна коса гнезда вие,  
тънка снашка в земе гние.

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева

### 4. Да ме погребете на широки друми

Дора майци вика:  
— Майчо, мила майчо,  
майчо, мила майчо,  
моми умираат ли,  
5 моми умираат ли,  
моми главеници,  
моми главеници ?  
Майка Дори вика:  
— Доро, Доро моя,  
10 и моми си умираат,  
и моми главеници.  
— Майчо, мила майчо,

ње ага си умрам,  
ње ага си умрам,  
15 да ма пограбете,  
да ма пограбете  
на широки друме,  
дено ще да мини  
Диню Бакларчено,  
20 Диню Бакларчено  
сас сивоно стадо  
и ще да ми рьче:  
— Стани, Доро, стани,  
стани, Доро, стани,

25 армаган ти носам,  
армаган ти носам,  
скечофски стафиди,  
скечофски стафиди  
и лустри кондори.  
30 — Ни мога да си стана,

змийка ѝе испила,  
змийка ѝе испила  
мойне чарни очи,  
гнездо ѝе извила  
35 ф мойна руса коса.

14 септември 2003 г.

Костадин Каневски

### 5. Незифинка болна лежи - I

Незифинка болна лежи,  
болна лежи, душа бере,  
болна лежи, душа бере.  
Бубайко ѝ до главана,  
5 бубайко ѝ до главана,  
до главана диван седи.  
Бубайко ѝ диван седи,

диван седи, Коран пее.  
— Стани, стани, Незифинко.  
10 — Каг да стана, мил бубайко,  
каг да стана, мил бубайко,  
га ма земе потискала,  
га ма земе потискала,  
га ма майка порукала ?

11 март 2003 г.

Фильо Кънчев и Рамадан Койнарчев

### 6. Незифинка болна лежи - II

Незифинка болна лежи,  
болна лежи, душа бере.  
Бубайко хи до главана  
диван седи, Коран пее,  
5 диван седи, Коран пее.  
— Стани, стани, Незифинко.  
— Каг да стана, мил бубайко,

га ма земе поискала,  
га ма земе поискала,  
10 га ма майка порукала,  
га ма майка порукала ?  
Рукайте ми мижувана,  
мижувана Незифинка,  
да ги предам мойна руба.

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева и Бистра Гаджева

## 7. Оти ми плачеш, бубайко

— Оти ми плачеш, бубайко,  
оти ми сълзи преливаш ?  
— Каг да не плачем, дъщерко,  
каг да не сълзи преливат,  
5 какво са пролет пукнало,  
пък ти си болна легнала,  
пък ти си болна легнала  
целички девет месеца,  
10 пък ти си болна легнала  
целички девет месеца.  
Любено ти са южени,  
ютре ще свадба да има.  
— Мълчи, не плачи, бубайко,  
и йе ща свадба да имам,  
15 и е ща свадба да имам  
чернана земе студена.

11 март 2003 г.

Фильо Кънчев

## 8. Норие ще курбан да ида

Кутила майка, гледала,  
кутила майка, гледала  
до три до четри дъщери,  
до три до четри дъщери,  
5 до три до четри дъщери,  
до три до четри дъщери.  
Трине са в земе легнали,  
трине са в земе легнали,  
трине са в земе легнали,  
10 трине са в земе легнали,  
анна Норйенка йостана,  
янна Норйенка йостана,  
янна Норйенка йостана,  
янна Норйенка йостана  
15 и те йе тешко болничка,  
и те йе тешко болничка.  
Пък й майка й викаше,  
пък й майка й викаше:  
— Норие, майчина дъщеро,  
20 Норие, майчина дъщеро,  
ко са Норие направиш,  
ако са Норие направиш,  
бел ше ти курбан заколем,  
бел ше ти курбан заколем.  
25 — Сетай са, майчо, збирай са,  
сетай са, майчо, збирай са,  
Норие ще курбан да идем,  
Норие ще курбан да идем.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

## 9. Дълбочко ще ме зароят

Мехмеци иде кахъран  
от шеренана жемие,  
от шеренана жемия,  
од високана минаре,  
5 од високана минаре,  
пък го майка му питаше,  
пък го майка му питаше:  
— Мехметьо, майчин сино льо,  
Мехметьо, майчин сино льо,  
10 оти си киман, кахъран,  
оти си киман, кахъран ?  
— Каг да ми не съм кахъран,  
каг да ми не съм кахъран ?  
Утре са казва ден байрем,

15 утре са казва ден байрем,  
пък заютрешник хас байрем,  
пък заютрешник хас байрем,  
врит че са зберат момине,  
врит че са зберат момине,  
20 момине и невестине,  
момине и невестине,  
прави щат люлки да правет,  
прави щат люлки да правят,  
пък мине летва ше сторет,  
25 пък мине летва ше сторят,  
далечко ше ма юнесат,  
далечко ше ма юнесат,  
длебочко ше ма заровет.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

## 10. Рафинка болна легнала

Рафинка болна легнала  
на височкана планина.  
Немало никой до нейе,

сал една стара майчица  
5 чешка й вода носеше.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев и Милен Шаламанов

## 11. Митьо се болен разболял

Митю са болан разболел  
на високана планина,  
на високана планина

5 пот щълбатано орехче.  
Девойки сено збираха  
и си на Митьо думаха:

— Митьо лъо, младо юначе,  
кайно си лежиш, умираш,  
какво ти е, Митьо, най-бално ?  
10 — Най-бално ми е, девойки.

пустно лето-пролето,  
сичко од земе излиза,  
сичко од земе излиза,  
пък ѝе нах земе търновам.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

## 12. Паднал ми е ранен млад Стоян

Паднал ми е ранен млат Стоян  
въф тае гора зелена,  
зелена гора хайдушка.  
Никой до нейе немаше,  
5 никой до нее немаше  
водица да му донесе,  
сенчица да му направи  
и люти рани привърже.  
Над него виет два орла,  
10 два орла, два сиви сокола.  
Стоян на орли думаше:  
— Вийте се, вийте, два орла,  
вийте се, вийте, два орла,  
два орла, два сиви сокола,  
15 дорде ми душе излене,  
тогас се ниско спуснете,

тогас се ниско спуснете,  
белосо месо наяще  
и черни кърве напийте,  
20 десна ми ръка не яще,  
десна ми ръка не яще,  
най е ф уста земете,  
та ѝе височко дигнете.  
Де има двори широки,  
25 де има двори широки,  
и на двори чердаче,  
на чердака ми майка ми,  
майка ми риза шиеше,  
майка ми риза шиеше,  
30 там си ми ръка пуснете,  
ръкава да ми премери.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

## 13. Кой ще ти води любето

— Яриффу, синко, Яриффу,  
ти ми са збираш, търноваш

на Смилен ерна да збираш  
със четридесет мулета,

5 със осемдесет харара.  
Ярифо, синко, Ярифо,  
найде ли верна дружина ?  
— Найдох ми, майчо, найдох ми,  
Йеленка бела, чернока,  
10 Йеленка тенка, висока.  
Вървели, колко вървели,

га са тюрбена стигнали,  
чиф са са пушки пукнали,  
та са Арифа удрили.

15 Майка му желно плачеше:  
— Ярифу, синко, Ярифо,  
кой ше ти води кончено,  
кой ше ти води любено ?

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

#### 14. На сърце ми китка посадите

— Пушка пукна, Ягдъм,  
пушка пукна, Ягдице,  
пушка пукна във гора зелена,  
пушка пукна фъф гора зелена.  
5 Та удари, Ягдъм,  
та удари, Ягдице,  
та удари най-добрие юнак,  
та удари най-добрие юнак.  
Та не вели, Ягдъм,  
10 та не вели, Ягдице,  
та не вели, ох леле, сърчице,  
ам си вели: “Ох леле, другари,  
дето падна, — Ягдъм,  
дето падна, — Ягдице,

15 дето падна, там ме заровете,  
дето падна, там ме заровете.  
С ножове ми, — Ягдъм,  
с ножове ми, — Ягдице,  
с ножове ми гроба ископайте,  
20 с ножове ми гроба ископайте.  
На глава ми, — Ягдъм,  
на глава ми, — Ягдице,  
на глава ми чешме оградите,  
на глава ми чешме оградите.  
25 На сърце ми, — Ягдъм,  
на сърце ми, — Ягдице,  
на сърце ми китки посадите,  
на сърце ми китки посадите.”

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

#### 15. Трима лекари дойдоха

Разболела са момата,

момата на търговеца.

Ден болна лежи, ден здрава,  
а сега почна секи ден.

5 Баща ѝ рече, порече  
трима лекари да дойдат,  
тримата да са ергени.  
Трима лекари дойдоха,  
първе ѝ пипа на глава,

10 фторе ѝ слуше сърцено,  
трете си гръцки продума:

— Хатте щем да ѝе отровим,  
хатте щем да ѝе отровим,  
за тая мома лек нема.

15 Момата била учена,  
та са ѝе гръцки сетала.  
— Стани ги, татко, испъди,  
те искат да ма отровет,  
те искат да ма отровет,

20 млада, зелена да умра.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева





イスラム文化研究第 77 集 (2)

—イスラム教徒・キリスト教徒共住村—

ダヴィドコヴォ村民衆歌謡集

(2) 音声・映像資料編

寺島憲治 編著

2005 (平成 17) 年 3 月 10 日

発行 東京外国語大学

アジア・アフリカ言語文化研究所

〒 183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

Tel 042-330-5600

印刷 株式会社東京プレス

東京都板橋区桜川 2-27-12

© 2005 Kenji Terajima

ISBN 4-87297-893-5



